すべての活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人

NPO愛知ネット 活動記録 2011

特定非営利活動法人
NPO愛知ネット
Non-Profit Organization NPO Aichi Net

すべての活動は、
災害時の
情報のために 。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、
被災状況など必要な情報を逐次流してきました。
そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と 、
いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。
「防災・災害救援」、「社会教育」、「市民活動支援」、「まちづくり」の4つからなる活動は 、
被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています 。

■防災・災害救援
Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。

「平成 23 年度知立市避難所運営訓練」
災害時の避難所の運営について、実際に体験することにより運営に関する問題点等を点検した。校区の住民・消防団等、約 30 名が参加した。

■社会教育
Social education

NPO愛知ネットは、愛知県青年の家が公の施設であることを認識し、公平・公正な運営を厳守し、全ての県民が、あらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即した教養を高められるように、愛知県青年の家として環境を整えた社会教育の場を提供します。同時に、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指します。

「科学実験キャラバン隊」
愛知県「青年の家」　（岡崎市）

■まちづくり
Town planning

災害時には日ごろからのつきあいやネットワークの力が役立ちます。それを充実させ活性化させていくことはまさに「防災の活動」といえます。ＮＰＯ愛知ネットでは、各種イベントの企画実行を通して日ごろからの「地域力向上」に貢献しています。

外国人のための生活情報支援．医療通訳、
行政通訳実施

■市民活動支援
NPO support

ボランティア活動団体、市民団体、ＮＰＯで活動しているみなさんが活動しやすい環境づくりを目指して、インターネット環境はもとより、「わくわくセンター」「刈谷市民ボランティア活動センター」「大府市民活動センター」「豊橋市民センター・オレンジプラザ」「碧南市ボランティアサポートプラザ」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案しています。

「豊橋市民センターオレンジ・フェスタ」
市民活動見本市として、豊橋市で活動する市民活動団体の活動内容を一般市民にＰＲすることと、市民活動団体同士が交流を図り、横のつながりをつくることでネットワークを構築することを目的としたイベント。今年度は東日本大震災から 6 ヶ月経過した時期に、被災者支援をテーマに実施。

■防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

近年の東海・東南海地震強化地域の拡充に伴って、NPO 愛知ネットに対する地域からの防災活動に関するニーズが以前にも増して多くなってきました。

このような状況に際して NPO 愛知ネットはこれまで行ってきた各種の啓発・訓練、情報伝送に関する各種実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には防災会議や啓発イベント、自主防災活動高度化事業、情報伝送に関する実証実験、災害時要援護者サポートブック作成支援や安否確認システムの普及のための活動がそれにあたります。

●防災活動

Ⅰ. 啓蒙・啓発活動

1. 実施概要

愛知県・市町村並びに、各団体・組織が主催する訓練・会議・委員会などに参画する。そして情報交換、意見交換を行いながら、地域防災力の向上に寄与する。

2. 目標・計画と実績

防災訓練・会議・委員会に参画市、他団体や地域とのネットワークを広げ、災害時の支援体制を強化することを目標とする

●従業員の人数

7 名(天野、大野、寺田、南里、伊藤、勝屋、佐藤)

●受益対象者の範囲および人数

愛知県民 742 万人

3. 実施したイベント

「あいち防災フェスタ 2011」・「防災＆ボランティアフォーラム」

日　時：2011 年 11 月 13 日
場　所：愛・地球博記念公園
担当者：伊藤、柴、伊原
内　容：愛知県・あいち防災協働社会推進協議会・防災のための愛知県ボランティア連絡会が主催する防災啓発イベントにてブース出展を実施した。NPO 愛知ネットの被災地支援活動について来場者に PR した。

平成 23 年度みよし市防災リーダー養成講座

日　時：2012 年 2 月 18・19・25 日
場　所：みよし市役所
担当者：天野、伊藤
内　容：愛知県みよし市における防災リーダーを養成する講座を全 3 回で開催した。東日本大震災からの教訓を講義とし、実習体験では「避難所運営シナリオワークショップ」を実施した。災害時の具体的な行動を参加者同士で考えた。

車座集会
「東日本大震災の復興支援の状況と碧南市の防災を考える」

日　時：2012 年 2 月 16 日
場　所：碧南市ボランティアサポートプラザ
担当者：南里
内　容：車座集会に講師出演した。支援活動や碧南市の防災対策について講義を行った。20 名の参加者と意見交換を行い、地域の防災力向上について考えた。

平成 23 年度知立市避難所運営訓練

日　時：2012 年 3 月 3 日
場　所：知立市来迎寺小学校
担当者：伊藤、松原
内　容：災害時の避難所の運営について、実際に体験することにより運営に関する問題点等を点検した。校区の住民・消防団等、約 30 名が参加した。

トヨタ自動車第 3 回社内 CSR 勉強会

日　時：2012 年 3 月 21 日
場　所：トヨタ自動車本社
担当者：佐藤
内　容：社内勉強会の中にて講演を実施した。社外者からみた震災復興に対するトヨタグループの支援活動について報告した。

『大震災から学ぶ　「心を奮わす体験」から学ぶ、西三河のまちづくり、人づくり』

日　時：2012 年 3 月 24 日
場　所：安城市民交流センター
担当者：天野
内　容：愛知学泉大学 コミュニティ政策研究所・経営研究所、安城市民活動センターの共催で、シンポジウムが開催された。その中で被災地の実情を報告した。

Ⅱ. 調査･研究事業

Ⅱ－1. 大府市緊急雇用事業

1. 実施概要

平成 23 年度緊急雇用創出事業を行う。具体的には、①自主防災組織活性化事業の企画と実施、②防災意識啓発事業の企画と実施である。昨年度中に実施した、市民(および中学生への)アンケート結果から現状把握を行い、市民のニーズにあった一般市民対象の防災意識啓発事業の企画立案・実施、自主防災組織対象の自主防災活性化事業の企画立案・実施を行う。

2. 目標･計画と実績

目標：大府市総合計画に挙げている防災コミュニティづくりを推進するための事業を行う。大府市では、第 5 次大府市総合計画の中で｢安心・安全な生活を守る環境づくり｣があり、その施策の中で「災害対策推進」が掲げられている。また、大府市地域防災計画では「自主防災組織が効果的に機能できるよう育成を図る」という計画を掲げている。このため、本事業をとおした既述計画の推進を行うとともに、大府市民やその自主防災会らが「受動的訓練(行動)」から、防災意識の芽生えによる「能動的訓練(行動)」に変化できるようにアプローチする。

●従業員の人数
6 名(大野、寺田、伊藤、河合、勝屋、山田)

●受益対象者の範囲および人数
大府市民 8.5 万人

3. 実施したイベント

日　時：2011 年 6 月 5 日
場　所：横根山自治区事務所
担当者：大野、伊藤、河合、柴
内　容：防災啓発事業の実施に先立ち、
　　防災マップづくりの狙いや効果を中心に説明した。

日　時：2011 年 9 月 7 日
場　所：大府市民活動センター
担当者：大野、伊藤、河合
内　容：事業を実施する大府市森岡自治区の担当メンバーに対して、①災害に対する自治区の被害想定、②まちあるきの際の記録項目選定を実施した。

日　時：2011 年 9 月 25 日
場　所：大府公民館
担当者：大野、伊藤、河合
内　容：事業を実施する大府市大府自治区の担当メンバーに対して、①災害に対する自治区の被害想定、②まちあるきの際の記録項目選定を実施した。

日　時：2011 年 10 月 15 日
場　所：横根山自治区内各所
担当者：大野、伊藤、河合
内　容：防災マップ作成のための「まちあるき」を実施し、自治区内の危険箇所や防災資源等を記録した。

日　時：2011 年 10 月 30 日
場　所：大府自治区内各所
担当者：大野、河合
内　容：防災マップ作成のための「まちあるき」を実施し、自治区内の危険箇所や防災資源等を記録した。

日　時：2011 年 11 月 24 日
場　所：大府市民活動センター
担当者：大野、伊藤、河合
内　容：まちあるき実施結果を基に、e コミマップシステムへの入力作業を実施した。自治区の担当メンバーに PC を用いての入力手順をレクチャーし、各グループ内の危険箇所等を登録した。

日　時：2011 年 11 月 27 日
場　所：大府中学校
担当者：大野、伊藤、河合、山田
内　容：まちあるき実施結果を基に、e コミマップシステムへの入力作業を実施した。大府中学校の協力のもと、自治区の担当メンバーに PC を用いての入力手順をレクチャーし、各グループ内の危険箇所等を登録した。

日　時：2011 年 11 月 27 日
場　所：横根山自治区内各所
担当者：大野、伊藤、河合
内　容：防災マップ作成のための「まちあるき」を実施し、自治区内の危険箇所や防災資源等を記録した。

日　時：2011 年 12 月 4 日
場　所：至学館大学
担当者：伊藤、河合、勝屋、山田
内　容：まちあるき実施結果を基に、e コミマップシステムへの入力作業を実施した。至学館大学の協力のもと、自治区の担当メンバーに PC を用いての入力手順をレクチャーし、各グループ内の危険箇所等を登録した。

日　時：2011 年 12 月 18 日
場　所：大府公民館
担当者：伊藤、山田
内　容：入力した地図上の情報を出力し、地域の強み・弱みを確認、今後の課題について検討した。地域の課題は「やることリスト」としてまとめ、次年度以降の防災計画策定の参考資料とする。

日　時：2012 年 1 月 19 日
場　所：大府市民活動センター
担当者：伊藤、山田
内　容：入力した地図上の情報を出力し、地域の強み・弱みを確認、今後の課題について検討した。地域の課題は「やることリスト」としてまとめ、次年度以降の防災計画策定の参考資料とする。

日　時：2012 年 1 月 22 日
場　所：横根山自治区集会所
担当者：伊藤、山田、河合
内　容：入力した地図上の情報を出力し、地域の強み・弱みを確認、今後の課題について検討した。地域の課題は「やることリスト」としてまとめ、次年度以降の防災計画策定の参考資料とする。

4. 今後の計画・残された課題

今後の計画：防災事業を進めるコミュニティにおいて、防災マップ作成事業を継続する。完成したマップを基にして、地域の防災力向上を図る。

Ⅲ. 情報支援事業

Ⅲ－1. あんぴメール、安全・安心メール

1. 実施概要

災害時に携帯電話のメールシステムを使い安否の確認をするとともに、安否の確認を家族に知らせるシステム。また、そのシステムを流用し、平常時は不審者情報や火災情報などを配信する安全・安心システムの運用。

2. 目標・計画と実績

目標： 安否確認システム利用者 3 万人。安全・安心システム利用者 1 万人。
計画：安否確認システムで 7 千人、安全・安心システムも含め今年度中に 1 万人を計画。
実績：利用者数は、安否確認システムは 4 千 500 人。安全・安心システムは 7 千 600 人となった。

●従業員の人数
　2 名（天野・伊藤）
●受益対象者の範囲および人数
　1 万 2 千 100 人

3. 実施した事業内容

昨年度末実施の、「あんぴメール運営検討会」において聴取された意見・要望を元に、あんぴメールのシステム、及び安全・安心メールの改修を進めた。配信される情報の細分化を図り、より地域性の強い情報サービスへと改善することができた。

4. 今後の計画・課題

今後の計画：前年度に引き続き、本年度もあんぴメール運用としては黒字である。今後は、システムへの要望をふまえ、システム改修を行いながら、人件費を出すまでに事業を成長させたい。また、安全・安心メール利用を拡大させていきたい。

今後の課題：上記計画をもとに、利用拡大をいかに行うかの検討を重ねていく必要がある。

● 災害救援活動

■愛知県被災者支援センター運営事業

Ⅰ. 事業の概要

(1)市町村が行う受入被災者支援のバックアップ業務
(2)受入被災者からの広域的なニーズへの対応業務
(3)県民、企業等からの広域的な支援希望への対応業務
(4)その他上記業務に共通、関連、付随する業務

開所式に大村知事が激励に

Ⅱ. 事業の目的と目標

目的

市町村や地域のみでは対処できない東日本大震災の受入被災者の広域的なニーズに対応するとともに、県民、企業等の支援の声を具体的な活動につなげることを目的とする。

目標

①被災者が居住可能な公営住宅に関する情報を50件以上とりまとめ､市町村及び被災者へ提供する。
②被災者が必要としている情報をとりまとめ、月2回、お知らせとして郵送する。
③被災者同士の交流及び被災者と地域住民との交流を促進するための交流会・イベントを共催も含め、10回以上実施する。
④専門機関、企業等への支援要請（各種無償相談、施設の無償利用など）を50件以上行う。

Ⅲ. 実施内容

①被災者が居住可能な公営住宅に関する情報
知多地域5件、東三河地域6件、西三河地域14件、名古屋地域20件、尾張地域15件の合計55件

②被災者が必要としている情報をお知らせとして郵送
定期便として6月30日、7月11日、25日、8月10日、25日、9月9日、26日、10月11日、25日、11月10日、25日、12月9日、26日、1月10日、25日、2月10日、24日、3月9日、26日の19回、臨時便として8月1日、17日、31日、9月16日、10月14日、26日、11月2日、12月21日、2月2日、16日の10回

③被災者同士、被災者と地域住民との交流を促進するためのイベントを実施
6月19日豊橋市、7月9日昭和区、7月30日一宮市、8月6日岡崎市、8月21日南区、8月28日天白区、9月4日半田市、9月17日海部・津島、9月18日女性交流会、10月29日日進市、11月5日西三河、11月6日豊田博物館、11月6日名古屋deめぐりあい、11月12日一宮市、11月13日あいち防災フェスティバル、11月19日海部・津島12月11日緑区、12月18日瑞穂、12月25日南区、1月22日東区、2月12日小牧、2月18日豊橋愛大、2月19日瑞穂2月25日ふるさと大交流会、3月3日トヨタ、3月18日瑞穂、3月18日犬山、3月18日大府、3月25日弥富の合計29回、348世帯、1,004名の避難者が参加しました。

12月25日ふるさと大交流

④専門機関、企業等への支援要請

支援サービス提供として 68 件相談会・説明会として 16 回、交流会での相談会として 29 回

パーソナルサポートチーム会議として 18 回生活支援物資提供として 16 件以上

Ⅳ. まとめ

この事業は、ＮＰＯ4 団体（ＮＰＯ愛知ネット、レスキューストックヤード、ボランティアみみより情報局、岡崎まち育てりた）のほかに、愛知県社会福祉協議会、生活協同組合コープあいちおよび愛知県防災局が、被災者支援センターの運営にかかわり実施した。さらに、20 名を超える事務局ボランティアおよび、各市町村の担当者、各市町村の社会福祉協議会、さらには市民活動団体、ボランティア団体の協力、連携がなければ、何一つ達成できなかった。

たとえば、生活支援物資の配送には、コープあいち様のご協力をいただいたり、各市町村の担当者から、見守り活動を兼ねて物資を避難者に手渡ししていただいた。また、各地で避難者相互あるいは避難者と支援者との交流会においては、各市町村の担当者から各地区の避難者への告知を行っていただいた。そして交流会の開催においては、専門機関、企業にご協力いただき相談会を開催することができた。

飛島村からのお米（あいちのかおり）授与式

■社会教育

Social education

愛知県下唯一の県立青年の家である当施設は、青少年のみなさんが、規則正しい集団宿泊生活をしながら、研修活動、野外教育活動、レクリエーション活動などを通して、協同・友愛・奉仕の精神を養い、よりよい社会人としての資質を身につけるために作られた社会教育施設です。

本年度より、豊橋市青少年センターを指定管理制度で受託し運営を開始しました。岡崎青年の家との連携を図りつつ、三河の青少年教育に貢献してまいります。

●愛知県青年の家

センター概 要

場　　所 ： 愛知県岡崎市美合町並松 1-2

電　　話 ： 0564-51-2123

ファクス ： 0564-51-2027

Ｅ－ｍａｉｌ： yh-staff@npo-aichi.or.jp

ＵＲＬ ： http://www.aichi-yh.jp

開館時間 ： 8 時 30 分～17 時 30 分（宿泊客無し）

8 時 30 分～22 時（宿泊客有り）

休 館 日 ： 毎週月曜日

（祝日の場合は火曜日が休館日）

敷地面積 ： 24.895 ㎡

建物延面積 ： 5.232 ㎡

宿泊定員 ： 180 人

構造・規模 ：

管理研修棟…RC 造 2 階建　2.446 ㎡

宿　泊　棟…RC 造 3 階建　2.015 ㎡

体　育　館…SRC 造平屋建　771 ㎡

アリーナ

野外施設…テニスコート（2 面）、

営火場、芝生広場、野外炊飯場、

つどいの広場、駐車場(46 台)、

自転車置場

主な施設 ：

管理研修棟…第 1 研修室(99 人)、第 2 研修室(63 人)、

第 3 研修室(63 人)、第 4 研修室、

(多目的ホール 192 席)、

第 5 研修室(36 人)、第 7 研修室(18 人)、

玄関ロビー、情報相談コーナー、保健室、

更衣室 2 室、食堂(116 人)

宿　泊　棟…宿泊室 45 室（洋室 37 室）

2 人用（バス・トイレ付）6 室、

2 人用 19 室、4 人用 4 室、6 人用 8 室

(和室 8 室)、6 人用 6 室、

15 人用で研修室兼用 2 室、

第 6 研修室(和風研修室)、

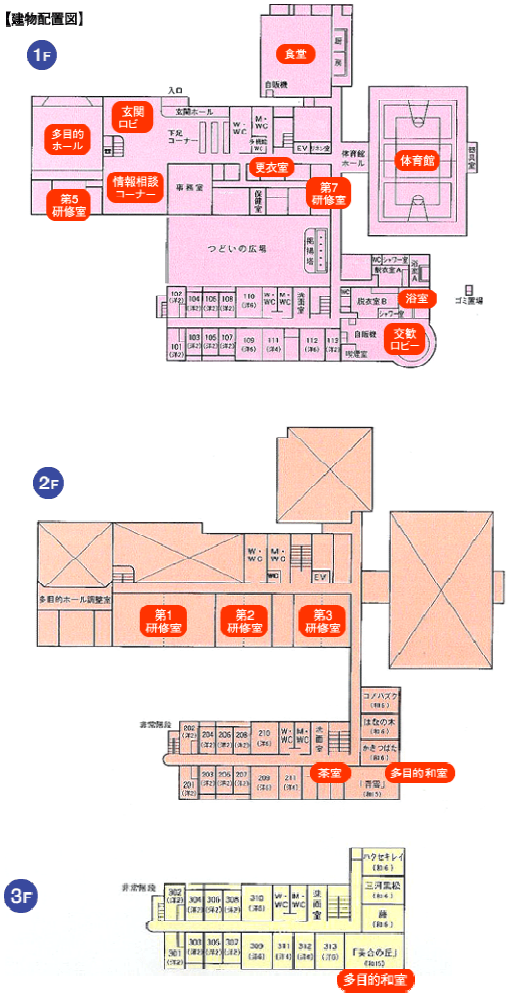
交歓ロビー、浴室（2)、シャワー室(2)

体　育　館…バスケットボール(1 面)、バレーボール(1 面)、

バトミントン(3 面)など

【敷地図】

【建物配置図】



主 な 設 備 ：
エレベーター、スロープ、多機能トイレ（身体障害者、オストメイト、乳幼児対応）、
AED（自動体外式除細動器）、車椅子(2)

Ⅰ.センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（1）業　務　名　：　愛知県青年の家指定管理業務

（2）事業の目的　：　当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。（主催事業の充実・キャラバン隊新設・派遣）

（3）実 施 期 間　：　平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（土）までの 5 年間

２．愛知県青年の家の業務内容

（１）社会教育に関する情報の収集及び提供に関すること。
①施設内における展示等による情報提供の企画･運営
②ホームページの維持･更新
③情報誌の企画及び発行（月 1 回）
④各種資料・図書等の収集及び整理並びに掲示、配架
（２）主催事業の実施
（３）施設の利用許可等に関すること。

Ⅱ．今年度の目標

（１）昨年以上の利用者数を目指し、経営化の安定に努める。
（２）地域との連携を深める事業の充実を図る。
（３）危機管理の徹底を図る。（危機管理マニュアルの見直し）
（４）サービス向上のために、施設等の充実を図る。
（５）他施設との連携を深め、広域的な運営に努める。

Ⅲ．実績

■宿泊者数

年間目標　……　22,000 名
年間実績　……　20,935 名

■利用料金収入

年間利用料金収入目標・・43,000,000 円
年間利用料金収入実績・・42,080,250 円

■実施したイベント

（1）週末活動支援事業

年間予定

第 1 回	平成 23 年 6 月 4 日（土）	忍法！へんしんの巻（第 1 弾）
第 2 回	平成 23 年 7 月 16 日（土）	忍法！へんしんの巻（第 2 弾）
第 3 回	平成 23 年 10 月 9（日）～10 日（祝）【1 泊 2 日】	キャンプファイアー
第 4 回	平成 23 年 12 月 17 日（土）	クリスマスのかざり
第 5 回	平成 24 年 1 月 16 日（土）	正月の遊び

1．主催事業「忍法！へんしんの巻（第１弾）」

日　時：平成 23 年 6 月 4 日（土）
場　所：青年の家
参加者：30 名
内　容：火おこし体験
　　野外炊飯（カレーライスづくり）
　　フライングディスク

2．主催事業「忍法！へんしんの巻（第２弾）」

日　時：平成 23 年 7 月 16 日（土）
場　所：青年の家
参加者：30 名
内　容：うどん作りに挑戦
　　巨大シャボン玉
　　水鉄砲を作って遊ぼう

3．主催事業「忍法！へんしんの巻（第３弾）」

日　時：平成 23 年 10 月 8 日（土）～9 日（日）
場　所：青年の家
参加者：70 名
内　容：キャンプファイヤー
　　野外炊飯
　　キャンプファイヤー
備考　　3 年生以上子供のみ参加可能

4．主催事業「忍法！へんしんの巻（第４弾）」

日　時：平成 23 年 12 月 17 日（土）
場　所：青年の家
参加者：70 名
内　容：クリスマスの飾りを作ろう
　　野外炊飯
備　考：3 年生以上子供のみ参加可能

（２）科学体験促進事業

	日程		会場	人数
1	4 月 16 日(土)	上地５区	南部よりなん	60 名
2	4 月 24 日(日)	安城みゆき子ども会	桜町小	57 名
3	5 月 8 日(日)	岩津小	岩津小	92 名
4	6 月 2 日(木)	白百合学園	青年の家	15 名
5	6 月 5 日(日)	岩津小	岩津小	96 名
6	6 月 7 日(火)	西尾小	青年の家	120 名
7	6 月 18 日(土)	西尾図書館	西尾図書館	10 名
8	7 月 1 日(金)	名古屋養護	青年の家	70 名
9	7 月 2 日(金)	たかはま･夢･未来塾	高浜市	40
10	7 月 2 日(土)	双葉小学校	刈谷市	750 名
11	7 月 2 日(土)	柱東子ども会	青年の家	70 名
12	7 月 16 日(土)	西尾図書館	西尾図書館	16 名
13	7 月 23 日(土)	上重原	知立市	54 名
14	7 月 27 日(水)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
15		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
16	7 月 29 日(金)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
17		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
18	7 月 30 日(土)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
19		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
20	7 月 31 日(日)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
21		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
22	8 月 5 日(金)	海の科学館　　杉浦	蒲郡市	６０名
23	8 月 5 日(金)	勅使台子ども教室	豊明市	50 名
24	8 月 6 日(土)	小牧図書館	小牧図書館	40 名
25	8 月 6 日(土)	小牧図書館	小牧図書館	40 名
26	8 月 7 日(日)	ココニコ	豊橋	20 名
27	8 月 9 日(火)	西尾小寺子屋	永吉	30 名
28	8 月 10 日(水)	西尾小寺子屋	唯法寺	30 名
29	8 月 11 日(木)	児童クラブ	挙母小	50 名
30	8 月 12 日(金)	高齢者センター		40 名
31	8 月 17 日(水)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
32		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
33	8 月 19 日(金)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
34		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名

35	8 月 20 日(土)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
36		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
37	8 月 21 日(日)	夏休み親子教室・午前の部	愛・地球博記念公園	150 名
38		夏休み親子教室・午後の部	愛・地球博記念公園	150 名
39	8 月 21 日(日)	後屋敷子供会	六ツ美南部小	88 名
41	8 月 25 日(木)	男川学童	男川児童育成センター	50 名
42	8 月 26 日(金)	豊田市藤岡中央児童館	豊田市藤岡中央児童館	50 名
43	8 月 26 日(金)	徳重図書館		45 名
44	8 月 27 日(土)	中根小学校		100 名
45	8 月 27 日(土)	幸田中央公民館	幸田中央公民館	50 名
46	8 月 29 日(月)	コダマクラブ	豊田市幸海小	30 名
47	9 月 3 日(土)	尾張旭市白鳳小 体育館	中止	100 名
48	9 月 3 日(土)	一色東部小学校	中止	400 名
49	9 月 17 日(土)	西尾図書館	西尾図書館	16 名
50	9 月 17 日(土)	平地東	よりなん	80 名
51	9 月 23 日(金)	三好児童 club 空気宙返りロボット	福田児童館	80 名
52	9 月 25 日(日)	筋ジストロフィー協会	県青年の家	40 名
53	10 月 1 日(土)	たかはま･夢･未来塾	高浜市	40 名
54	10 月 1 日(土)	平地 4 区子供会	青年の家	17 名
55	10 月 9 日(日)	愛知こどもの国	西尾市	50 名
56	10 月 16 日(日)	日進市梨の木小	日進市	252 名
57	10 月 19 日(水)	知多市旭北小	知多市体育館	96 名
58	10 月 25 日(火)	新城市千郷小	新城市	1,200 名
59	11 月 2 日(水)	一宮野口保育園	一宮野口保育園	160 名
60	11 月 3 日(木)	安城市役所子育て支援課	モリコロ公園	２５名
61	11 月 5 日(土)	三ツ渕小学校	小牧市	50 名
62	11 月 5 日(土)	刈谷産業まつり	刈谷市	1,000 名
63	11 月 6 日(日)	豊田市高橋コミュニティ	豊田市	60 名
64	11 月 6 日(日)	馬頭みどり子ども会	緑丘東公民館（保育）	50 名
65	11 月 12 日(土)	小牧市桃が丘小	小牧市	50 名
66	11 月 19 日(土)	西尾図書館	西尾図書館	16 名
67	11 月 19 日(土)	小牧光ケ丘小	小牧市	30 名
68	11 月 20 日(日)	高木製作所		1,550 名
69	11 月 20 日(日)	岩津学区子ども会	岩津小学校	220 名

70	11 月 21 日(月)	南陽南 B 子ども会	知立市公民館	40 名
71	11 月 27 日(日)	豊橋青少年センター		50 名
72	12 月 3 日(土)	たかはま･夢･未来塾	高浜市	(見神)
73	12 月 4 日(日)	岩津　天神子ども会	岩津集会場	50 名
74	12 月 10 日(土)		みよし小体育館	250 名
75	12 月 11 日(日)	上地７区子ども会	岡崎市上地第１公民館	55 名
76	12 月 11 日(日)	ひくま子ども会	知立市　来迎寺小	70 名
77	12 月 11 日(日)	大坪小学校(植田山子供会)	名古屋市	60 名
78	12 月 17 日(土)	東蔵前子ども会	東蔵前第１公民館	50 名
79	12 月 18 日(日)	鳴海　松田様	熊野前小	60 名
80	12 月 18 日(日)	岡崎小学校	岡崎市	60 名
81	12 月 21 日(水)	高齢者講座	ニューグランド	80 名
82	12 月 22 日(木)	名古屋　霞ヶ丘子ども会	名古屋市	25 名
83	12 月 23 日(金)	黒笹子ども会	みよし黒笹小	200 名
84	12 月 23 日(金)	大西子供会（小池様）	高根山公民館	100 名
85	12 月 25 日(日)	尾張旭市東部市民センター	青木	150 名
86	同上	小牧西部児童館		60 名
87	1 月 21 日(金)	西尾図書館	西尾図書館	16 名
88	2 月 5 日(土)	羽根子ども会		55 名
89	2 月 11 日(金)	土橋子ども会	土橋小学校	80 名
90	2 月 18 日(金)	山屋敷子ども会	知立小学校	100 名
98	3 月 17 日(木)	西尾図書館他 7 回	西尾図書館	５３３名
			合計	９４３７名

１．第１四半期　「科学実験キャラバン隊」

日　時：平成 23 年 4 月 16 日（土）　より
場　所：愛知県青年の家ほか
回　数：7 回
参加者：約４５０名
担当者：赤堀
内　容：各種科学実験

２．第２四半期　「科学実験キャラバン隊」

日　時：平成 23 年 7 月 1 日（土）　より
場　所：愛知県青年の家ほか
回　数：43 回
参加者：約 4,349 名
担当者：赤堀
内　容：各種科学実験

３．第３四半期　「科学実験キャラバン隊」

日　時：平成 23 年 10 月 1 日（土）より
場　所：愛知県青年の家ほか
回　数：36 回
参加者:約 5,327 名
担当者：赤堀
内　容：各種科学実験

４．第４四半期　「科学実験キャラバン隊」

日　時：平成 24 年１月 1 日（日）より
場　所：愛知県青年の家ほか
回　数：12 回
参加者:約 800 名
担当者：赤堀
内　容：各種科学実験

（３）青年の集い事業

１．「ユースフォーラム」

日　時：平成 24 年 3 月 9 日(金)～3 月 10 日（土）
場　所：愛知県青年の家
参加者：50 名
担当者：海林
内　容：教員採用試験講座

（4）インキュベーション事業

1．「かっこいいオトナから学べ！」

日　時：平成 24 年 3 月 8 日(木)
場　所：愛知県青年の家
参加者：30 名
担当者：海林
内　容：講演会、交流

（5）コーディネート事業

1．「青年の家杯・空手道大会」

日　時：平成 24 年 3 月 3 日(土)・4 日(日)
場　所：愛知県青年の家
参加者：300 名
内　容：空手大会、交流会

（6）施設開放事業

1．「青年の家オープンデー」

日　時：平成 23 年 10 月 23 日(日)
場　所：愛知県青年の家
参加者：200 名
内　容：　野外炊飯
　　どきどき列車
　　科学工作
　　ゲーム
連携先：　愛知県青年講座受講者
　　愛知学泉大学

Ⅳ.今後の課題

1．施設･設備老朽化への対応・・・年間　300 万円程度必要
2．指定管理料 500 万円減のため経費削減に努力
3．経理事務等の見直しと強化
4．豊橋青少年センターと連携して、事業の拡大を図る
5．科学実験キャラバン隊の事業化を検討
6．来期の利用促進を検討

■社会教育

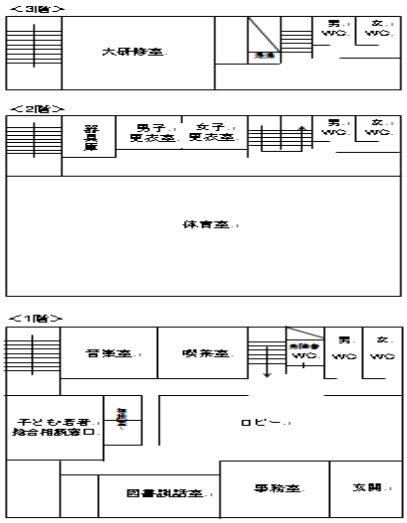
Social education

●豊橋青少年センター

センター概要

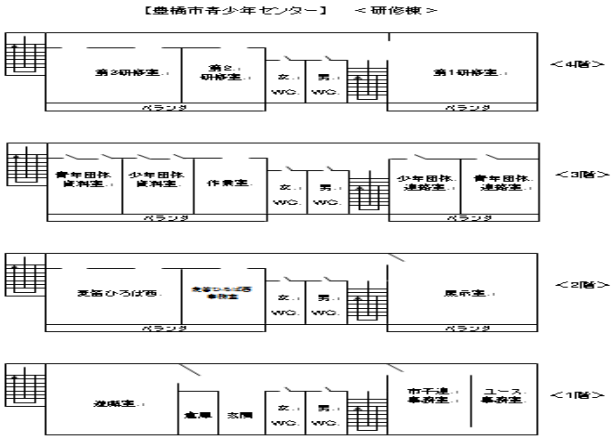
場　　所：豊橋市牟呂町字東里 26 番地
電　　話：(0532) 46-8925
ファクス：(0532) 46-8975
Ｅ－MAIL：info@toyohashi-yc.jp
Ｕ Ｒ Ｌ：http://toyohashi-yc.jp
開館時間：豊橋市青少年センター
　　午前 9 時～午後 10 時
　　：宿　　泊　　棟
　　入所　午前 9 時～午後 5 時
　　退所　午前 9 時 30 分
休 館 日：毎週月曜日
　　（月曜日が国民の祝日または休日のときはその次の平日）
年末年始：12 月 29 日～1 月 3 日
構造・規模　〈建物延べ面積〉
　中央棟　：ＲＣ造 3 階建　1,982 ㎡
　研修棟　：ＲＣ造 4 階建て　890 ㎡
　宿泊棟　：ＲＣ造 4 階建て　935 ㎡
　屋外施設　：運動広場　　3,844 ㎡

＜中央棟＞



主な施設
・中央棟…・音楽室・図書談話室・喫茶室
　　・子ども若者総合相談窓口（・愛護センター,
　　若者サポートステーション）
　　・大研修室（100）人
　　・体　育　室
　　・ソフトバレーボール 3 面
　　・バトミントン 3 面
　　・卓球台 7 台
　　・運 動 広 場（ソフトボール 1 面
　　ナイター照明有り）
・研修棟　・第 1 研修室（48）人

＜研修棟＞



・第 2 研修室（12）人

・第 3 研修室（36）人・青少年団体連絡室

・麦笛ひろば西・展示室

・子ども会事務室

・遊戯室

・宿泊棟・宿泊室 12 室　56 人

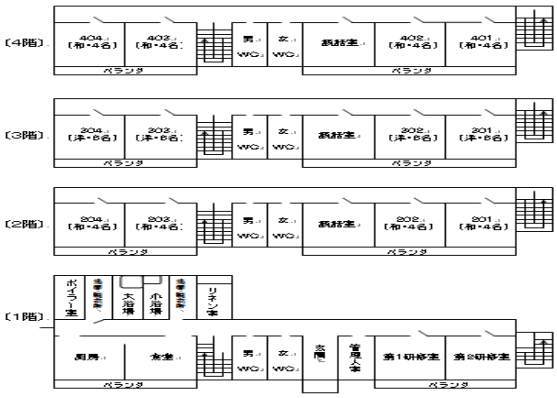
（・4 人用和室 8 室・6 人用洋室 4 室）

・食堂 1・浴室 1・厨房 1

・談話室 3

・若者就労支援室 1

＜宿泊棟＞



Ⅰ．センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

（1）業務名：豊橋市青少年センター指定管理業務

（2）事業の目的：

① 豊橋市の子ども会連絡協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、健民少年団、海洋少年団、スポーツ少年団、青年団協議会などの活動拠点として位置づけ、青少年健全育成の拠点施設として機能する。

② 青少年センター中央棟に４月より豊橋市の子ども・若者総合相談窓口、豊橋愛護センター、若者サポートステーションを開設し、青少年の健全育成の拠点施設として機能を拡大する。

（3）実施期間：　平繁 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

2. 豊橋市青少年センターの業務内容

（1）自主事業の実施、施設の広報に関する業務

① 自主事業の企画、実施に係る業務

・ 青少年のための研修会、講習会等の開催

・ 青少年のためのレクリエーション活動の実施

・ 青少年の団体活動の助長

② 情報提供、広報に関する業務

・ 「広報とよはし」や教育委員会への情報提供

・ 施設のパンフレット、広報紙「ヤングウエーブ」の作成・配布

・ 事業・行事等のポスターやチラシの配布並びにメディア利用の広報活動

・ ホームページの開設

（2）運営に係る業務

① 施設の使用承認等運営業務

② 施設使用料の徴収及び払込事務

（3）施設の維持管理業務

① 施設管理に関する業務

② 公衆電話の使用料等の徴収及び払込事務

Ⅱ. 今年度の目標

1　初年度に当たり、豊橋市教育委員会が行ってきた業務を堅実に受け継ぎ、実行し、信頼を得る。

2　利用者目標人数 50,000 名とし、青少年センター、研修棟、宿泊棟の日帰り及び宿泊利用者へのサービス向上に努める。

3　青少年が学習や話し合いを進め、仲間づくりや各種の催し、趣味を育て、教養を高めるとともに青少年団体に自主的な活動の場を提供する。

4　青少年の日常活動に即して、交友と研鑽の場を提供し、スポーツ、レクレーション、青少年の研修、団体活動等の助長をする。

Ⅲ. 実施したイベント

1　レクリエーション・インストラクター養成講座（全 34 回）

日　時：5 月 10 日～10 月 21 日
　　毎週火・金曜日（除く 8 月）
時　間：午後 7 時 15 分～8 時 45 分
　※9 月 10 日(土)午前 9 時 30 分～正午
場　所：豊橋市青少年センター
参加者：延べ 576 名（受講者 474＋講師 102）
内　容：レクリエーション・インストラクターに必要な実技・理論等を様々な活動で身に付ける
講　師：日本レクリエーション協会公認レクリエーションコーデイネーター
その他：日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター試験受験資格の対象となる

2　青年講座

（1）前期　5 月～6 月　週 1 回全 8 回 4 講座

①　ソフトバレーボール
　日　時；平成 23 年 5 月 12 日～6 月 30 日
　　毎週火曜日午後 7 時～9 時
　場　所：青少年センター体育室
　参加者：延べ 194 名

②　ジャズダンス
　日　時；平成 23 年 5 月 13 日～7 月 1 日
　　毎週金曜日午後 7 時～9 時
　場　所：青少年センター体育室
　参加者：延べ 77 名

③　空手

日　時：平成 23 年 5 月 12 日～6 月 30 日
　　毎週木曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター体育室
参加者：延べ 42 名

④　太極拳

日　時；平成 23 年 5 月 13 日～6 月 30 日
　　毎週木曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター大研修室
参加者：延べ 93 名

（2）後期　9 月～11 月　週 1 回全 8 回 4 講座

①　ソフトバレーボール

日　時；平成 23 年 9 月 6 日～11 月 8 日
　　毎週火曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター体育室
参加者：延べ 147 名

②　ジャズダンス

日　時；平成 23 年 9 月 9 日～10 月 28 日
　　毎週金曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター体育室
参加者：延べ 86 名

③　空手

日　時；平繁 23 年 9 月 8 日～10 月 27 日
毎週木曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター体育室
参加者：延べ 81 名

④　太極拳

日　時；平成 23 年 9 月 9 日～10 月 27 日
　　毎週木曜日午後 7 時～9 時
場　所：青少年センター大研修室
参加者：延べ 111 名

3　四季の行事教室

（1）七夕のつどい

日　時:7 月 3 日(日)午後 1 時～3 時
場　所：豊橋市青少年センター大研修室
対　象：市内在住の小学生とその家族
参加者：70 名

（2）お月見のつどい

日　時：9 月 25 日(日)午後 1 時～3 時
場　所：豊橋市青少年センター大研修室
対　象：市内在住の小学生とその家族
参加者：64 名

（3）クリスマスのつどい

日　時：12 月 11 日(日)午後 1 時～3 時
場　所：豊橋市青少年センター大研修室
対　象：市内在住の小学生とその家族
参加者：57 名

（4）ひなまつりのつどい

日　時：2 月 26 日(日)午後 1 時～3 時
場　所：豊橋市青少年センター大研修室
対　象：市内在住の小学生とその家族
参加者：56 名

4　わくわく体験クラブ

（1）鮎のつかみ取り　バスツアー

日　時：平成 23 年 7 月 31 日（日）
場　所：本宮山自然休養村「男川やな」＆
　　あかつまや公園ぎょぎょランド
対　象：豊橋市内在住の小・中学生と保護者
内　容：夏休み恒例のバスツアー。男川で鮎の掴み取りと食事の後、あかつかやま公園ぎょぎょランドで「とよがわ」にすむ、魚をはじめ生物を観察する。
参加者：15 組 35 名　参加料 2,600 円(食事代)

（２）親子ポスター教室

日　時：平成 23 年 7 月 28 日（木）･29 日（金）
午前 9 時～12 時
場　所：青少年センター　大研修室
対　象：小学生親子　20 組　56 名
内　容：夏休み課題のポスター作りを親子で楽しく学び、作品を完成させる。
参加者：1 日目　15 組　35 名　2 日目　14 組　33 名

（３）ちびっ子科学スクール「野菜ロケット」

日　時：平成 23 年 8 月 20 日（土）午前 9 時 30 分から正午
場　所：青少年センター大研修室及び運動場
対　象：小学生親子
内　容：フィルムケースをロケットに仕立て、大根、人参、牛蒡などすりおろした野菜を詰めて、オキシドールとの反応を応用して地上高く飛ばす実験を親子で行う。
参加者：親子 20 組　56 名

（４）科学実験キャラバン隊

日　時：平成 23 年 11 月 27 日（日）午前 10 時から 11 時 30 分
場　所：青少年センター　大研修室
対　象：小学生親子
内　容：おもしろ科学実験キャラバン隊によるサイエンスショウ「空気の不思議」を見たり、宙返り紙飛行機を作ったり、オーバークラフトに乗ったりして、親子で科学を楽しく遊びながら学ぶ。
参加者：親子　21 組　52 名

（５）割りばしでつくるおもちゃ

日　時：3 月 10 日（土）午前 10 時から正午
場　所：青少年センター　大研修室
対　象：小学生親子
内　容：割り箸を主な材料として親子でけん玉やプロペラなどを作製し、その作品を使って楽しく遊ぶ。
参加者：親子　6 組　19 名

5　ジュニア･チャレンジ講座　　卓球

日　時：平成 23 年 12 月 24･25･27･28 日
　　4 日間　午前 10 時～11 時 30 分
場　所：青少年センター大研修室
対　象：小学生 20 名
内　容：冬休み期間 4 日間の小学生向け卓球教室
参加者：延べ 73 名

6　女性レクリエーション教室

日　時：平成 24 年 2 月 1 日～3 月 7 日　毎週水曜日
　　6 日間　午前 10 時～正午
場　所：青少年センター大研修室及び体育室(29 日)
対　象：成人女性
内　容：講師に日本レクリエーションコーディネーターとインストラクターを頼み、受講者がレクリエーション指導者して活動するためのスキルを身につけてもらう講座。
　講座修了者は、女性レクリエーション活動グループ「ディースレクわたぼうし」の会員としての活動につなげる。
参加者：延べ 74 名

Ⅳ. 青少年センター並びに関連団体施設利用者数

（単位：人）

時期／施設利用者数	青少年センター（研修室･体育室等）	青少年センター（宿泊室）	若者サポートステーション	愛護センター	麦笛ひろば西	計
第 1 期	11,771	673	2,739	78	88	15,349
第 2 期	13,811	776	2,620	113	67	17,387
第 3 期	13,500	692	2,674	69	545	17,480
第 4 期	9,867	747	2,695	64	250	13,623
合　計	**48,949**	**2,888**	**10,728**	**324**	**950**	**63,839**

Ⅴ. 今後の成果と課題

1　指定管理業務初年度にあたり、豊橋市教育委員会が行ってきた業務を堅実に受け継ぎ、実行し、信頼を得るという目標が達成できた。特に生涯学習課社会教育担当職員と緊密な連携をとり、施設の管理、運営、事業の継続・発展に努めた。

2　利用者目標 5 万人を達成し、青少年を地域で育て社会に役立つ人づくりに貢献できた。

3　24 年度は管理業務を委託されたＮＰＯ愛知ネットの特色を出す 2 年目、さらに 27 年度を見通した事業計画を企画し、運営していく。

4　施設・設備の経年劣化の対応を計画的にしていく。

■NPO・市民団体支援

昨年度まで進めてきたボランティアや市民活動を支援するセンターの管理運営を中心とする事業を引き続き実施していきます。今後は地域内分権がより進むことが予測されるため、それぞれの行政区域の特性を活かす事業が求められています。

指定管理者による施設の運営とあわせて、ボランティア及び市民活動の促進を目的に、ＮＰＯとしての特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきたいと考えます。

● 刈谷市民ボランティア活動支援センター

センター概 要

センター外観

場　　所 ： 刈谷市寿町 1-409

電　　話 ： 0566-62-8231

ファクス ： 0566-62-8232

E－MAIL： kcv109box@katch.ne.jp

U　R　L ： http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/

開館時間 ： 10 時～21 時　但し、日曜日 10 時～17 時

休 館 日 ： 毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

主な施設 ： 交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場

使用料金 ： コピー機使用は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参
※施設、ロッカー、その他機材使用は無料

談話スペース ：登録団体が打ち合わせ、団体間の交流の場として利用。
※テーブルは 2 島有り 18 席と 18 席、36 席で利用することも可能

ロッカー ： 活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、27 個）

メールボックス ： 各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用。
（メールボックスの数は、36 個）

作業スペース ： 印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。

＊貸出備品：プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート（10 着）、クリスマスツリー（2 セット）、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ（５本）、ビンゴマシン、布ぞうり製作台（6 台）、小型プロジェクター、　レーザーポインタ、ハンドベル、防災カルタ、非常持ち出しゲーム、紙芝居枠、グルーガン、名札、腕章

Ⅰ.センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名　：　刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営委託

（２）事業の目的　：　様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する

（３）実施期間　：　平成 22 年 4 月 1 日（土）～平成 23 年 3 月 31 日（土）
（指定管理＝平成 23 年 3 月 31 日まで→平成 24 年 3 月 31 日までに 1 年延長）

２．刈谷市民ボランティア活動支援センターの任務

(1) 情報の収集・提供業務

①「かりや市民ボランティア活動情報サイト」（ボランティア情報サイト）の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集などのコーディネート業務、サイト利用操作説明など

②刈谷市民ボランティア活動支援センターのHP作成及び維持管理

③メールマガジン及び情報誌（ぼらっち。）等の発行

(2) 活動場所の提供業務

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応

②印刷機器等設備の利用に関する事務

(3) 意識啓発・普及業務

①意識啓発活動の実施（業務全体を通じて）

②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

(4) 人材育成・交流業務

①人材育成のための研修会を企画・運営（スキルアップ講座等）

②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
（NPO・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催）

(5) 相談・連絡調整業務

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能（マッチング活動）

②NPO法人認証取得のための相談への対応

Ⅱ．前年の実績と23年度の環境

１．前年の実績

(1)数値実績

前年実績の 5％向上を目標として、取り組んできた。けれども、表1のように全ての管理項目達成できた。

表１　目標と実績　＊H15 年は半年間の活動実績。　H20 年に個人会員の見直しを実施し 45 人が退会。

	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H2１年	H22 年実績	
	実　績	実　績	実　績	実　績	実　績	実　績	実　績	実　績	前年比
総来館者数	2,512 人	6,260	6,917	8,392	11,072	12,313	11,986	12,692 人	106%
相談件数	139 件	227	472	554	624	706	742	861 件	116%
マッチング件数	11 件	49	54	62	71	78	86	90 件	105%
団体登録	130 団体	179	208	227	253	284	319	337 団体	105%
個人登録者	7 人	33	62	105	129	116	150	172 人	115%

(2)イベント

車座集会（5 回の計画→７回実施）、スキルアップ講座（5 回の計画→６回実施）、特別企画として 5 回追加実施し、年度計画を大きく上回って実施してきた。

(3)その他

①刈谷市の監査が 10 月 27 日にあり、結果は指摘事項なしであった。

②東北大震災が 3 月 11 日に発生し、募金箱設置、応援物資の取次ぎなどを行った。

２．今年度の環境

(1) 地域社会

①東北大震災の復興支援、電力不足
②刈谷市は定住自立圏構想の中心市に宣言
③刈谷市共存・協働まちづくり推進基本方針策定３年目

(2) センターをとりまく環境

①指定管理者の再公募の年である。
②来年度は新センターへ移転の年である。

Ⅲ．23年度の目標

１．狙い

市民に頼りにされる（ＮＰＯ愛知ネットでなくては困る）センターをめざす。

２．目標

(1) 前年実績の 5%以上のアップをメドに活動する。
(2) 車座集会、スキルアップ講座を其々５回以上実施する。
(3) 次期指定管理者として受託する。

３．重点施策

基本的には従来の活動を踏襲するが新規の施策として。

(1)東北大震災復興支援によるボランティア啓発
(2) 刈谷市共存・協働のまちづくりにふさわしいマッチング活動
(3) 地球環境、防災・減災害を意識した講座も実施する。

Ⅳ. 23年度の目標と実績

	H22 年	H23 年度		
	実　績	目　標	実　績	達成率
総来館者数	12,692 人	13,327 人	13,708 人	103%
相談件数	861 件	904 件	900 件	100%
マッチング件数	90 件	95 件	95 件	100%
団体登録	337 団体	350 体	355 団体	101%
個人登録者	172→131 人	136 人	150 人	110%

※個人登録者は、23 年初めに継続更新の見直しを実施した結果、172 人が 41 人退会し 131 人になった。
※全ての項目で達成できた。

実施したイベント

年度計画は、車座集会 5 回以上、スキルアップ講座 5 回以上である。

1．車座集会

（1）イベント名　第 43 回車座集会
日　時：2011 年 5 月 17 日（火）13：10～17：00
場　所：株式会社デンソー安城製作所
参加者：22 名
講　師：デンソー安城製作所
　　総務課職員
担当者：スタッフ全員
内　容：～企業のボランティア活動とエコ活動を見に
　　いこう～というテーマで実施した。

（2）イベント名　第 44 回車座集会
日　時：2011 年 6 月 5 日（日）10：00～11：30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：34 名
講　師：高桑俊康氏
　　（ＮＰＯ愛知ネット理事）
担当者：スタッフ全員
内　容：～東日本大震災現地報告　被災地の状況と支援を
　　知ろう～というテーマで実施した。

（3）イベント名　第 45 回車座集会
日　時：2011 年 8 月 25 日（木）10：00～11：30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：23 名
講　師：塚本　岳氏
　　（リトルハウス代表）
担当者：スタッフ全員
内　容：～遊びの偉大さ・大切さ、遊びを通じた被災地の
　　子どものケアー～というテーマで開催した。

（４）イベント名　第 46 回車座集会

日　時：2011 年 10 月 15 日（土）18：30～20：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：22 名
講　師：南里　幸氏
（ＮＰＯ愛知ネット事務局員）
担当者：スタッフ全員
内　容：～地域とＮＰＯが結びついての復興支援
地域の助け合いが復興の原動力～という
テーマで開催した。

（５）イベント名　第 47 回車座集会

日　時：2012 年２月４日（土）18：30～20：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：33 名
講　師：矢野正也
（刈谷ホームニュース記者）
担当者：スタッフ全員
内　容：～取材ノートから見える刈谷～というテーマで
開催した。

２．スキルアップ講座

（１）イベント名　第 46 回スキルアップ講座

日　時：2011 年６月９日（木）13：30～15：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：14 人
講　師：進行　センタースタッフ
担当者：スタッフ全員
内　容：～帰宅困難者のための一夜待避場を創ろう～
というテーマで実施した。

（２）イベント名　第 47 回スキルアップ講座

日　時：2011 年７月 29 日（金）10：30～12：00
13：30～15：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：20 組 45 人の親子
講　師：刈谷おもちゃ病院
清水敏和氏　田中清博氏　北野幸助氏
内　容：～夏休み親子チャレンジ企画、わりばし工作・
的あてゲーム～というテーマで実施した。

（３）イベント名　第 48 回スキルアップ講座

日　時：2011 年９月 27 日（火）18：30～30：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：14 団体 17 人
講　師：刈谷市役所　大矢桂己氏　丹羽雅彦氏
アイシン精機㈱　山田巡氏
支援センター　　牧野清光
内　容：～身近な助成金を知ろう～というテーマで
刈谷市の夢ファンド、オールアイシン NPO 活動
応援基金、申請書の書き方のポイントを説明した。

（４）イベント名　第 49 回スキルアップ講座

日　時：2011 年 10 月 21 日（金）～23 日（日）終日
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：50 人　　(37 組)
講　師：スタッフ
内　容：～第３回　Make a CHANGE　Day に参加しよう！
http://npo-aichi.sub.jp/kcvs/saisin3600/img/380.jpg
収集ボランティアキャンペーン
チョボラでつなぐ刈谷の輪～というテーマで開催。
エコキャップ、書き損じはがき、使用済み切手など
センターに来るきっかけを作った。

（５）イベント名　第 50 回スキルアップ講座

日　時：2011 年 10 月 29 日（土）10：30～12：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
http://npo-aichi.sub.jp/kcvs/saisin3600/img/382.jpg
参加者：10 人
講　師：米田正寛氏
（(財）少林寺拳法連盟刈谷南支部　支部長）
内　容：～ボランティアの心を開くボラ入門講座
護身術体験教室・自分を守ろう！心を磨こう！
～というテーマで開催した。

３．特別イベント

（１）　応援物資の取次ぎ

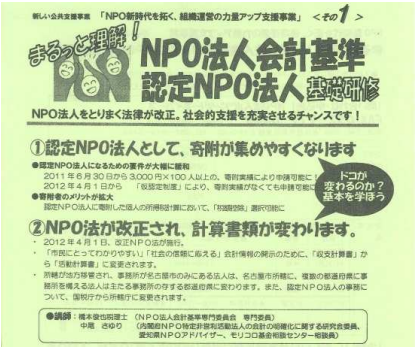
日　時：2011 年 4 月 9 日（土）～5 月 22 日（日）
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：61 人
講　師：当センタースタッフ
担当者：スタッフ全員
内　容：～被災地に応援物資を届けよう～というテーマで、
支援センターで物資を集め、愛知ボランティア
センター（東別院）届ける中継ぎをした。
運搬は 4 月 18 日・21 日 5 月 3 日・24 日の 4 回

（２）　東日本大震災報告会

日　時：2011 年 7 月 22 日（金）18:00～19：45
場　所：刈谷市総合文化センター
参加者：100 人
講　師：東海新報社　社長　　鈴木英彦氏
副部長　臼井圭一氏
進行　NPO 愛知ネット代表　天野竹行
担当者：スタッフ全員
内　容：～地元の新聞社が伝える３・１１被災地の声～
というテーマでフォーラムを開催した。

（３）　ＮＰＯ法人会計基準・認定ＮＰＯ法人基礎研修

日　時：2011 年 10 月 10 月 19 日（土）13：00～17：30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：35 人（21 団体）
講　師：橋本俊也（ＮＰＯ法人会計基準専門委員）
　　中尾さゆり（愛知県ＮＰＯアドバイザー）
　　刈谷市税務課
担当者：スタッフ全員＆刈谷市市民協働課
内　容：～ＮＰＯの計算書類の改正、認定ＮＰＯ法人について基礎研修会を実施。



（４）刈谷市協働事例集　ｖｏｌ２の発行

日　時：2012 年 1 月 10 日（火）
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
購読者：600 人（登録団体、協働会議参加者など）
担　当：刈谷市＆刈谷市民ボランティア活動支援センター
内　容：刈谷市は市制６０周年を記念して市民公募事業「コラボ６０」を実施した。採択された１９件のうち、特長のある８団体を掲載して、今後の活動の参考にして頂くために発行した。

（５）バーチャル融資審査委員会

日　時：2012 年 1 月 28 日（土）13：30～17：00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：12　人
担　当：コミュニティ・ユースバンク　momo
協　力：刈谷市民ボランティア活動支援センター
内　容：資金調達で悩んでいるＮＰＯなどを対象に、多様な資金を調達するための実践プログラムを開催した。センターとしては、人集め、模擬申請団体の推進などの協力をした。

（６）3.11 を忘れない

日　時：2012 年 3 月 11 日（日）14:30～19:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：1 部　150 人　2 部　200 人
担　当：3.11 を忘れない実行委員会
　　チーム刈谷・刈谷防災ボランティ・和太鼓衆悟空
　　刈谷赤十字奉仕団・ＮＰＯ愛知ネット
内　容：第 1 部　黙とう
　　キャンドル作り
　　第 2 部　600 個のキャンドルナイト
　　トン汁ふるまい、物産品販売
　　ミサンガ販売、写真展など

Ⅴ.まとめ

１． 数値目標は全ての項目を達成できた。

２． 震災については、募金箱設置、応援物資取次ぎ、刈谷市のボラバス４回の募集など東日本大震災の応援活動を積極的に実施してきた。

2012 年 2 月 11 日にはボラバス参加者有志の大懇親会開催、

また、刈谷３．１１を忘れえないなど特別イベントを 6 回も追加で開催した。

３． 次期指定管理に応募し受託が決まった。また今年の 4 月に刈谷市民交流プラザ（旧南庁舎）移転しリニューアルオープンを実施した。

４． 24 年度は、活動センターは新しく広くなり、また情報サイトも定住自立圏形成で、知立市、高浜市、東浦町一緒になり広域のサイトとなった。スタッフ一同心機一転して努める。

■NPO・市民団体支援

●安城市民交流センター

センター外観

センター概要

場　　所 ： 安城市大東町１１番３号
電　　話 ： 0566-71-0601
ファクス ： 0566-71-0668
E－MAIL ： center@katch.ne.jp
ＵＲＬ ： http://www. katch.ne.jp /~center/
開館時間 ： 9時～21時
休館日 ： 毎週月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）
主な施設 ： １．安城市民活動センター
① 作業室（印刷機等）
② ロッカールーム（80台）
③ ミーティングコーナー（6席×3）
④ 活動室（24名）
⑤ 第一和室（12名）
⑥ 第二和室（6名）
⑦ パソコンコーナー（3台）
２．第一音楽室（5名）
３．第二音楽室（8名）
４．多目的ホール（180名）
６．調理室（25名、調理台5台）
７．会議室（24名）
８．キッズコーナー
９．給湯室
１０．授乳室

料金設定:

区分	午前	午後	夜間	全日
	9：00-12：00	13：00-17：00	18：00-21：00	9：00-21：00
多目的ホール全面	5,040	6,720	6,040	14,240
多目的ホール半面	2,520	3,360	3,020	7,120
会議室	800	1,060	960	2,240
第1音楽室	360	480	440	1,020
第2音楽室	620	840	760	1,760
調理実習室	1,100	1,460	1,320	3,100
調理台	100	100	100	－
卓球器具	300	300	300	－

※使用料は安城市に直接納付する。利用料は指定管理者が受け取る。

Ⅰ.センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（1）業　務　名　：安城市民交流センター指定管理業務

（2）事業の目的　：世代を超えた市民相互の交流の促進及び市民活動の活性化を図るため

※市民活動とは、市民等が自主的に参加して自発的に行う地域社会に貢献する活動をいう。

（3）実施期間　：平成 22 年 4 月 1 日(水)～平成 25 年 3 月 31 日(土)までの 3 年間

2. 安城市民交流センターの業務内容

（1）市民交流センター内に安城市民活動センターを設置し、次に掲げる事業を行う。
①市民活動に関する情報の収集及び提供並びに相談
②市民活動を担う人材の育成
③市民活動を行う者相互の連携及び交流の促進
④市民活動を行うための施設及び設備の提供
⑤その他市民活動を促進するために必要な事業
（2）　市民交流センターの利用に関する業務
（3）　市民交流センターの施設及び設備の維持管理に関する業務

Ⅱ. 今年度の目標

狙い：多様な市民の利用促進と、多くの市民と市民活動とのマッチングを目指す。

目標：①総来館者数　30,000 人以上
②有料施設の利用率　50 ％以上（全室平均）
③相談件数　250 件以上
④マッチング件数　75 件以上

重点施策
（1）多くの市民への有料施設やフリースペースの利用を通じて、センターの認知を目指す。
（2）市内の市民活動に関わる問題を常に把握し、適切な相談業務の提供を通じ信頼の獲得を目指す。
（3）多くの市民に対し、適切な市民活動体験を得ていただけるようなマッチング業務を目指す。

Ⅲ. 第各四半期の目標と実績

■安城市民交流センターの稼働実績

	目　標	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	累積
総来館者数	30,000 人	8,886 人	10,628 人	14,710 人	9,707 人	43,931 人
相談件数	250 件	45 件	43 件	27 件	44 件	159 件
マッチング件数	75 件	12 件	8 件	9 件	51 件	80 件
団体登録	—	356 団体	355 団体	357 団体	360 団体	360 団体
個人登録	—	90 人	90 人	90 人	88 人	88 人

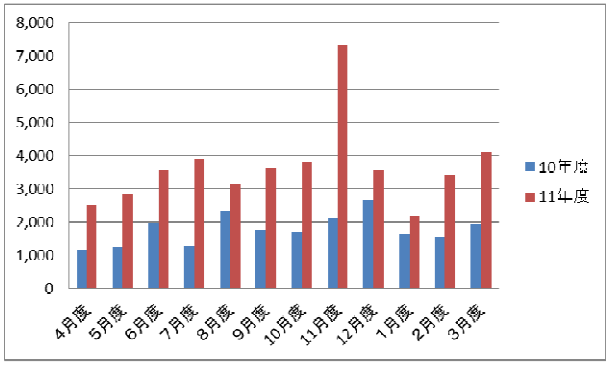
■来館者数

日付	10 年度	11 年度	前年比
４月度	1,162	2,507	215%
５月度	1,243	2,828	227%
６月度	1,992	3,551	178%
７月度	1,267	3,889	307%
８月度	2,324	3,131	135%
９月度	1,746	3,608	207%
10 月度	1,695	3,788	223%
11 月度	2,134	7,344	344%
12 月度	2,665	3,578	134%
１月度	1,625	2,172	134%
２月度	1,545	3,424	222%
３月度	1,952	4,111	211%
合計	21,350	43,931	206%

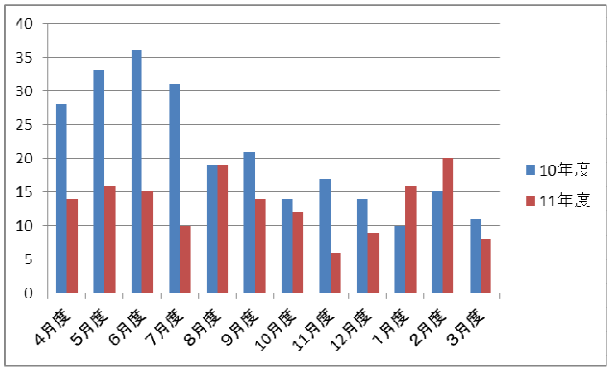
■相談件数

日付	10 年度	11 年度	前年比
４月度	28	14	50%
５月度	33	16	48%
６月度	36	15	42%
７月度	31	10	32%
８月度	19	19	100%
９月度	21	14	67%
10 月度	14	12	86%
11 月度	17	6	35%
12 月度	14	9	64%
１月度	10	16	160%
２月度	15	20	133%
３月度	11	8	73%
合計	249	159	18.1%

■来館者数の推移



■相談件数の推移



■実施したイベント

(1)わくわくサロン

38.「二宮金次郎の生き方から学ぶ　生活を心豊かにする知恵」

日　時:2011 年 5 月 21 日(土)18:30～20:00
場　所:安城市民交流センター　活動室
参加者:23 名
内　容:ゲストスピーカーは(社)愛知報徳会常務理事の尾島輝雄さんです。二宮金次郎の生涯を振り返りながら、財政が傾いた藩の建て直しなどの功績、金次郎が追い求めた思想・信念などを解説いただきました。「徳を以て、徳に報いる」。誰もがそなえている徳(＝取り柄、長所、恵み)がつながりあって世の中が動いていること、自然に社会に父母に感謝し、徳を以てお返しすること。現代だからこそ活かせる金次郎の報徳思想や知恵に、参加者の皆さんが大きく頷いていました。

39.「東日本大震災現地報告」

日　時:2011 年 5 月 28 日(土)18:30～20:00
場　所:安城市民交流センター　会議室
参加者:被災地でボランティア活動を経験した 39 名
内　容:ゲストスピーカーに NPO 愛知ネットの理事・高桑俊康さんをお迎えし、東日本大震災現地報告会を開催しました。3/11 の発災から 3 度現地を訪れ、変わっていく現地の状況やニーズの変化、それに対応する支援の仕方等、興味深いお話しをして頂きました。私たちが今できること、防災:忘災(災害を忘れない)普段の努力:不断の努力(継続をすること)、次世代に伝えていかなくてはいけないことだと言われる言葉にみなさん共感してみえました。

40.「みんなで宇宙開発をしよう 2011 宇宙とロケット」

日　時:2011 年 6 月 4 日(土)10:00～14:00
場　所:安城市民交流センター　多目的ホール
　　安城市民交流広場
参加者:42 名
内　容:登録団体である安城ロケット団との共催で、日本モデルロケット協会の会長の山田氏お迎えして、モデルロケットの講習、モデルロケット製作、そして打ち上げをしました。こどもも大人も夢中になり、「もう一度ロケット打ち上げをしたい！」という参加者の方々のお声がたくさんありました。帰りには講習認定証や各種の記念品を贈呈しました。

41. One Heart TANABATA Project 特別報告会

日　時:2011 年 8 月 12 日(金)17:00～19:00
場　所:安城市民交流センター展示スペース
参加者:64 名
内　容:緊急開催した今回の報告会。大船渡盛町から 3 名、安城七夕まつりから 3 名をお迎えしました。津波が押し寄せる映像を見たり、大船渡、安城の七夕まつりの連携のお話しなどをお伺いし、真剣に食い入るように、そして時には笑顔につつまれる会場でした。

42.「震災とどう向き合うか」

日　時:2011 年 10 月 15 日(金)18:30～20:00
場　所:安城市民交流センター活動室
参加者:22 名
内　容:NPO 愛知ネット理事南里幸さんを迎えて開催。今年3月より岩手県気仙地区にて支援活動を続けてきた南里さんの、生のお話を伺った。他の団体と連携をして活動が広がった団体の話や、支援をする側の支援が必要であること、支援の仕方も変化していくこと等を伺いました。

43.「福島の里山を未来へつなぐ」

日　時:2011 年 12 月 3 日(土)18:30～20:00
場　所:安城市民交流センター活動室
参加者:17 名
内　容:ゲストは、うつくしま福島復幸プロジェクトの戸上昭司さん。「できることをやろう」と市民で立ち上げた「市民放射能測定所」の活動や、放射能汚染にさらされている飯舘村の現状、福島に住む人たちの心の葛藤などをお聞きしました。

44.「リサイクルってなに？それは優しさを夢に変えること」

日　時:2011 年 11 月 25 日(金)10:00～12:00
場　所:安城市民交流センター多目的ホール
参加者:106 名
内　容:ゲストは、AnjoHearts PROJECT の二村康輝さん。そして参加者は、中部小学校の3年生のみなさんなどでした。ペットボトルから作った「ロケット燃料」の実物を持って来てくださいました。安城市の中小企業の技術、やる気はすごいんです！

(2)スキルアップ講座

28. パソコン基礎講座 Windows 編

日　時:2011 年 4 月 23 日(土)18:00～20:30
場　所:安城市民交流センター　活動室
参加者:9 人
内　容:講師は市内で市民向けのパソコン講座講師で活躍している「パソコンほっぷ」の中田さん。WINDOWS 基礎編ということで、パソコンを使っている人でも今さら聞けない基礎の基礎話や、パソコンを操作するうえで大切になってくるフォルダの整理などを取り上げました。

29. 幼児安全法

日　時:2011 年 7 月 12 日(火)16:00～17:00
場　所:安城市民交流センター　第一和室、第二和室
参加者:38 人
内　容:日本赤十字奉仕団、高浜市より杉浦さんを講師に、安城奉仕団の方 3 名のサポートを得て講習会を開催しました。今回、初の試みとして「安城保育園」に開催協力を頂き、親子いっしょの講習で、子供の人形、AED を使っての実践的な講座になりました。

30. チラシの作り方基礎講座

日　時:2011 年 9 月 17 日(土)16:00～17:00
場　所:安城市民交流センター　多目的ホール
参加者:52 人
内　容:街の企画屋さんでおなじみの株式会社 MEETS の社長の小島さんを講師に、わくわくサロン「チラシの作り方基礎講座」を開催しました。"コトバのチカラ"を大事に、より効果のあるチラシを作るエッセンスを学ぶ 1 時間 30 分でした。

31. Make a Change Day in わくわくセンター

日　時:2011 年 10 月 23 日(土)10:00～17:00
場　所:安城市民交流センター　多目的ホール
参加者:47 人
内　容:ボランティア体験のきっかけづくりにと開催。キャップアートの制作と被災者向けのプレゼントにタオルを利用しての雑巾縫いを実施した。老若男女問わず、多くの参加を頂き、無事にキャップアート 2 種と寄贈用の雑巾 100 枚を、市民の協力で完成させた。

32. あんみつ講習会

日　時:2012 年 1 月 24 日(土)10:00～17:00
場　所:安城市民交流センター　活動室
参加者:17 人
内　容:情報ツールを市民活動や地域の人の交流に役立てるために、安城にある地域 SNS の「あんみつ」の利活用の方法について学習した

(3)その他の事業

1. 交流センターまつり

日　時:2011 年 11 月 20 日(日)10:00～15:00
場　所:安城市民交流センター
参加者:約 1000 人
内　容: 一般から広く実行委員を公募し、体験コーナー、ステージ発表などの内容を決め、それぞれの分担の中会議を複数回開催し、内容の調整を図った。当日は、小学生や就学前児童などを連れた親子、孫を連れた来ていた方など多くみられ、間の目的である世代を超えた市民の交流の場、センターという設備の PR の場として十分に機能した。

2. わくわく交流会

日　時:2012 年 1 月 29 日(土)13:00～16:00
場　所:安城市民交流センター
参加者:85 人
内　容:「あんねっと」との協働で開催。ワークショップを活用して協働の指針と、参加された市民活動団体間の理解を深め、市役所と市民活動団体、市民活動団体同士の協働を促進するきっかけとなった。

3. ポトマック河畔の桜寄贈 100 周年記念応援プロジェクト

日　時:2012 年 3 月 1 日～21 日
場　所:安城市民交流センター　掲示コーナー
参加者:50 名
内　容:ポトマック河畔の桜寄贈 100 周年記念応援プロジェクト実行委員会・三鷹市民協働センターとの協働で、安城市内の小学生の日米友好と桜をテーマにした絵画を集め、三鷹市市民協働センターでの掲示(3 月 24 日～)とアメリカのポトマック河畔の桜寄贈 100 周年記念式典会場へ送った。国際交流と地域間交流を行うことができた。

4. ONE HEART 3.11 in まちなか

日　時:2012 年 3 月 11 日(日)14:00～20:00
場　所:安城市民交流センター・安城市民交流広場
参加者:約 600 人
内　容:安城中央商店街連盟とその他市内の NPO などと協働で開催した。14:46 の黙祷と、地域物産やミサンガの販売、夜のキャンドルナイトで構成されたイベント。当日の運営協力の他に、3.11 にまつわるフォトやメッセージを地域 SNS「あんみつ」と協働で収集・掲示を 3 月 1 日～31 日まで行った。

5.「東日本から学ぶ」シンポジウム
大震災から一年「心を奮わす体験」から学ぶ、西三河のまちづくり、人づくり

日　時:2012 年 3 月 24 日(土)14:00～17:00
場　所:安城市民交流センター　多目的ホール
参加者:84 人
内　容:愛知学泉大学との協働の一環で開催。様々な立場から３．１１を再検証し、今後に役立てるためのシンポジウムとなった。

Ⅳ.まとめ

●第 1 四半期

安城市民交流センターも開設 2 年目になり、基本的な運用ルール等を確立し、地域の中でのセンターの認知も順調に進んではいる。

そのため、有料スペースの利用が、部屋利用率、利用金額ともに順調に推移している。しかし、相談やマッチング、また各種市民活動センターの施設の利用率が低迷している。今後は、当センターの目的の達成のために市民活動センターのサービスの充実を図っていく。

3 月 11 日の東日本大震災において、被災地への各種のボランティアの窓口としての機能が期待されているが十分に果たし得ていない。その中でも、特に安城七夕まつりとの連動した東北七夕まつり支援の各種の取り組み

（支援の折り鶴、現地への短冊、被災状況のギャラリー等）の場所として活用いただけている。今後は、受け身にならず、事務局と連携してボランティアバスの運行、その他の長期的支援の手法の窓口として活動していく必要性がある。

●第 2 四半期

第 1 四半期に引き続き、来館者数部屋の利用率など、目標を大きく上回るペースで推移している。
前期からの問題であった、相談やマッチングに関して、第 1 四半期から原因を探り、まずは入力や集計上のケアレスミスをなくすため、相談記録のIT化を推進してきた。今期において、まだ成果は出ていないが、次期から効果が期待できる。また、無料施設の利用促進のため、登録団体へ和室の利用率橋上の促進のためのご提案や、作業室の機器の改めてのご案内などすることで、前年度累計比にしてほぼ 100％まで回復してきた。

また、よりよいセンター運営のために三つの方針を掲げ、今期から手掛けている。センターの個性化、センターのIT化、近隣住民との関係改善である。

NPO愛知ネットらしいセンター運営を心掛け、被災地へのボランティア促進のための報告会や各種展示の強化。加えて愛フェス等との連動を考えて、ファンドレイジング(寄付情報)コーナーの設置など、積極的な個性化を行ってきた。

IT化に関しては、今までの予約管理システムだけではなく、会計、相談記録に関しても、年度内の完成を目指して順次進めている。これにより、利便性の向上のみならず、情報の透明化や、相談やマッチングのより良いサービス展開などをもくろんでいる。

近隣住民との関係改善のための継続的な交流会の開催を企画し、近隣の住民と話し合いをしながら来期からの実施を行う予定である。

当期は、設備修繕やイベント対応への人件費など、予算に対しての実績が大きく上回ってしまったので、来期以降、事業への選択と集中を行いながら、執行予算の正常化に努めたい。

●第 3 四半期

来館者数、利用率、利用料金などは目標を上回るペースで推移している。来館者数に関しては当初の年度目標を既に達成することができた。

昨期掲げた三つの方針（個性化、IT 化、近隣住民との関係改善）に従い、近隣との関係改善のための会合を実施し、継続的な会合の開催を希望されていることを確認できた。センター側にもスタッフの意識の変化など、メリットも多くみられ、より良い関係構築の第一歩が踏み出せたと言える。年度内にもう一度開催をする予定である。

相談とマッチングに関しては作業の IT 化などの対策を行ったものの効果が薄かったため、センターの個性化の一環として、季刊誌等の見直しなど市民活動の利用者へのアプローチ方法を再構成し、相談やマッチングの際に頼れるセンターとなることを目指す。また、今年度の主催事業はほぼ完了したので、来年度に向けての新しい組織づくり、イベント等の事業内容の見直しなどを行っていく。

今期はセンターの外部監査が入った関係上、IT システムにおける細かな修繕事項が多く発見することができた。まずは、修繕事項をきちんと反映し、健全なセンター運営を支える基盤システムとして完成させる予定である。

当期の人件費に関しては、3 名の退職に伴った 2 名採用の引継ぎ期間のため、また事業費に関してはセンターまつりの諸経費が予定よりかさんでしまったため、予算を大きくオーバーしてしまっている。なんとか今年度内に予算と実施の正常化に努めたい。

●第 4 四半期

本四半期は、各種事業実施は行わない予定であったが、当初予定のわくわく交流会のほかに、3．11関連の事業を中心に5つの事業を実施した。大学、県外他市、商店街との協働で行うことで人件費を中心としてコスト削減を図ったが、結果、コスト対策が不十分であり予算を超過する結果となった。

しかしながら、近隣交流会での地域との連携や、そのほかにも協働の場、協働の相手としての市民活動センターを十分に認識していていただき、今後に繋がる運営が行えたといえる。

来年度は、この協働の主体であり場としての市民活動センターとしての位置づけを伸ばしつつ、利用者増による、利用者と地域、利用者間のトラブルなどを発生させない運営の形を作る必要があると認識している。

集計上のミスで、第1四半期～第3四半期において利用金額からロール紙印刷の分が抜けていたので、今回修正を行った。

■NPO・市民団体支援

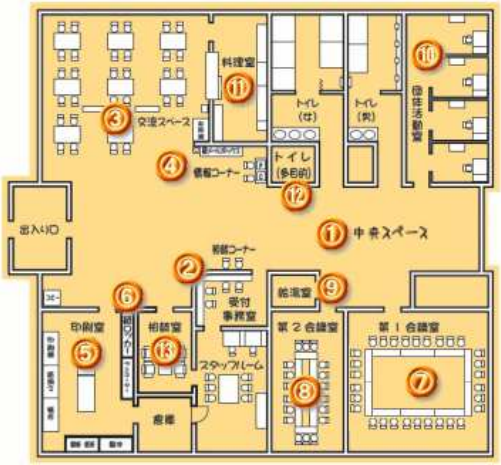
●大府市民活動センター【コラビア】

センター概 要

場　　所 ： 大府市森岡町 4 丁目 8 番地
電　　話 ： 0562-44-8500
ファクス ： 0562-44-8511
E－MAIL ： collabia@ma.medias.ne.jp
U R L ： http://www.medias.co.jp/~collabia/
開館時間 ： 9 時～22 時
休 館 日 ： 毎週月曜日、お盆(8 月 13,14,15 日)
年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)

主な施設 ：
1. 中央ロビースペース
2. 受付・相談窓口(事務室)
3. 交流スペース
4. 情報コーナー
5. 印刷室(作業室)
6. 貸ロッカー(20 区分)
7. 第 1(大)会議室
8. 第 2(小)会議室
9. 給湯室(会議室脇)
10. 団体活動室(4区画)
11. 料理室(ワンデーシェフ用)
12. 多目的トイレ
13. 相談室

センター外観



1. 中央ロビースペース：エントランスから見渡すことのできる、広々としたスペースです。絵画や写真などの作品を展示したり、ちょっとしたおしゃべりや談話スペースとしても利用できます。
2. 受付・相談窓口：コラビア・スタッフ 2 名が常駐します。
3. 交流スペース：だれでも自由に利用できるスペースです。昼間は「こらび庵」がオープンします。
4. 情報コーナー：中央ロビーを挟んで、受付・相談窓口の向かい側にある情報コーナーです。インターネットに接続できるパソコンが 2 台あって、予約なしにご利用できます。
5. 印刷室(作業室)：印刷室には、印刷機、紙そろえ機、裁断機、帳合機、紙折り機、製本機、およびA1サイズカラープリンター(長尺印刷化)などがそろっています。印刷機は 3 色の最新鋭機です。
6. 貸ロッカー：各団体さんの持ち物(用紙、筆記用具など)を保管することができます。20 区分あります。
7. 第1(大)会議室：机が 10 脚、イスが 30 脚、ホワイトボードを備えています。会議室にもインターネットへの接続口があり、どこからでもインターネットに接続できる環境が整っています。
8. 第2(小)会議室：机が 6 脚、イスが 18 脚、ホワイトボードを備えています。
9. 給湯室(会議室脇)：会議室をご利用の際に必要な給湯室です。

10. 団体活動室（インキュベート・オフィス）：活動を始めたばかりの団体さんに事務所の機能を提供します。パティションで区切られたスペースが 4 区画あり、机、イスとキャビネットに、インターネットの接続口と電話の接続口があります。4 区画あります。

11. 料理室：ワンデーシェフのための専用料理室です。コンロが2か所、シンクが2か所あり、いろいろな食器が30人分揃っています。数人が一度に料理することができます。

12. 多目的トイレ：電動車イスでも十分に回転できるスペースを確保した、バリアフリーデザインのトイレです。

13. 相談室：市民活動、ボランティア活動に関する相談業務に利用します。通常は貸し出しをしておりません。

14. スタッフルーム：スタッフのための事務・作業室です。ミーティングをしたり、食事をしたりすることもできます。

料 金 設 定:

使用料区分	単位	金額	利用料区分	単位	金額
第1（大）会議室	1時間	100円	白黒コピー	1枚	10円
第2（小）会議室	1時間	50円	カラーコピー（A3等）	1枚	※
団体活動室1区画	1か月	10，000円	インクジェットプリンター	1枚	※
※団体発足後、3年以内まで		5，000円	印刷機（マスター代）	1製版	50円
ロッカー1区分	1か月	200円	印刷機（インキ代）	1枚・色	1円

※使用料は大府市に直接納付する。利用料は指定管理者が受け取る。

※ご利用できる設備および利用料金の詳細については、スタッフまでお問い合わせください。

Ⅰ.センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

(1)業　務　名　：　大府市民活動センター指定管理業務

(2)事業の目的　：　大府市協働のまちづくり推進条例に基づき、市民活動の健全な発展を図る

※市民活動とは、市民等が自主的に参加して自発的に行う地域社会に貢献する活動をいう。

(3)実 施 期 間　：　平成 21 年 4 月 1 日(水)～平成 24 年 3 月 31 日(土)までの 3 年間

2. 大府市民活動センターの業務内容

(1) 市民活動に関する相談及び援助に関すること。
(2) 市民活動に関する情報の収集及び提供に関すること。
①施設内における展示等による情報提供の企画・運営
②センターホームページの維持・更新
③情報誌の企画及び発行（隔月 1 回程度）
④メールマガジンの企画及び発信（月 1 回程度）
⑤各種資料・図書等の収集及び整理並びに掲示、配架
(3) 市民及び市民団体等の相互交流事業の企画・運営
(4) （仮称）センターまつり事業の実施

(5)大府市主催事業(講座、セミナー、講演会等)の申込受付関連業務の実施

(6)ワンデイシェフ方式による喫茶・飲食の提供

(7)施設の利用許可等に関すること。

①センターの利用登録及び施設(印刷室・会議室・ロッカー・メールボックス)の貸出し。

②使用料の収受(日々集計、市への報告、市指定口座への入金業務)に関すること。

③施設及び設備の維持管理に関する業務の適正な維持管理にあたっては、常に良好な状態を保つように努めること。

1)管理運営業務の対象となる施設の維持管理

2)機械設備等の保守管理

(冷暖房機器保守管理、自動ドア保守管理、セキュリティシステム、建物・設備保守管理)

④施設の清掃に関すること。

快適な環境を保つために、施設の清掃及び鍵の管理の日常の維持管理を行うこと。

⑤夜間・休業日における警備を行うこと。

随時施設内外を巡回し安全の確保を図ること。閉館時については、機械警備を行うこと。

⑥駐車場の管理(利用者への案内・整理等の実施)に関すること。

⑦センターの利用実績及び業務実施状況報告書の作成

⑧その他　1)緊急時対策・防災対策・防犯対策について、マニュアルを作成し職員の指導を行うこと。

2)衛生管理については、法令を遵守した対応マニュアルを作成し、職員の指導を行うこと。

3)個人情報保護については、大府市個人情報保護条例を遵守するとともに、職員に徹底を図ること。

4)大府市環境方針に従うこと。

5)その他、センター及び設備の管理に必要と認められる業務。

Ⅱ. 今年度の目標

狙い:市民に認識されるセンターをめざすと同時に、市民から相談を受けられるセンターをめざす。

目標

①来館者数	19,500 人以上	(10 年度 7.5%アップ)
②相談件数	180 件以上	(10 年度 10%アップ)
③マッチング件数	15 件以上	(10 年度 10%アップ)

重点施策

1. 市民に広く認識してもらうよう、イベント、広報などの活動を展開する
2. 相談件数、マッチング件数の目標を意識した日常業務をめざす
3. スタッフが各自の役割を認識し、利用者に信頼される体制の確立をめざす

Ⅲ. 第各四半期の目標と実績

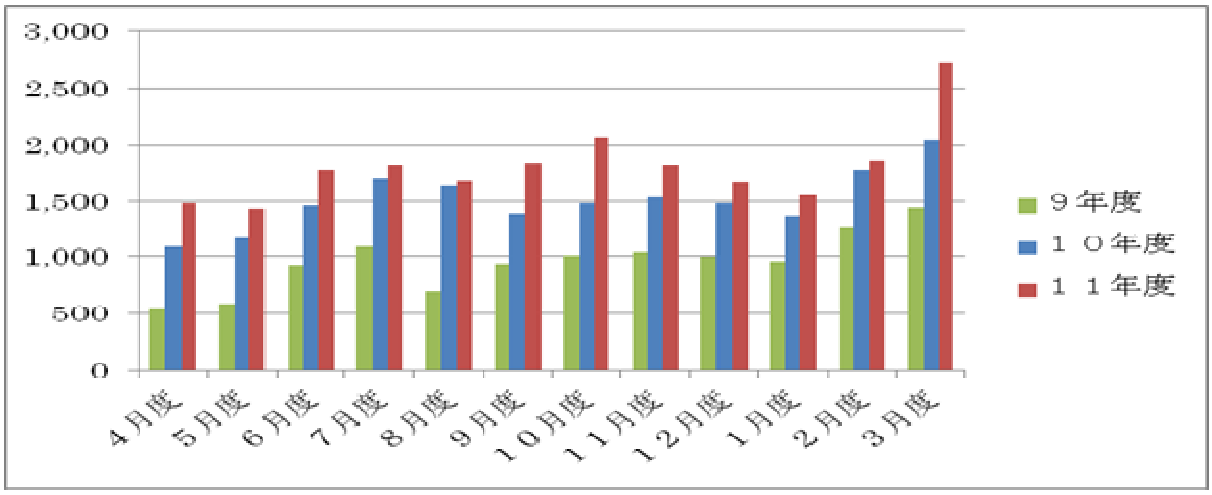
■大府市民活動センターコラビアの稼働実績

	目　標	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	累積
総来館者数	19,500 人	4,680 人	5,317 人	5,526 人	6,144 人	21,667 人
相談件数	180 件	53 件	34 件	46 件	60 件	193 件
マッチング件数	15 件	4 件	3 件	2 件	4 件	13 件
団体登録	―	193 団体	204 団体	210 団体	215 団体	―
ＷＥＢ会員	―	63 人	67 人	68 人	68 人	―

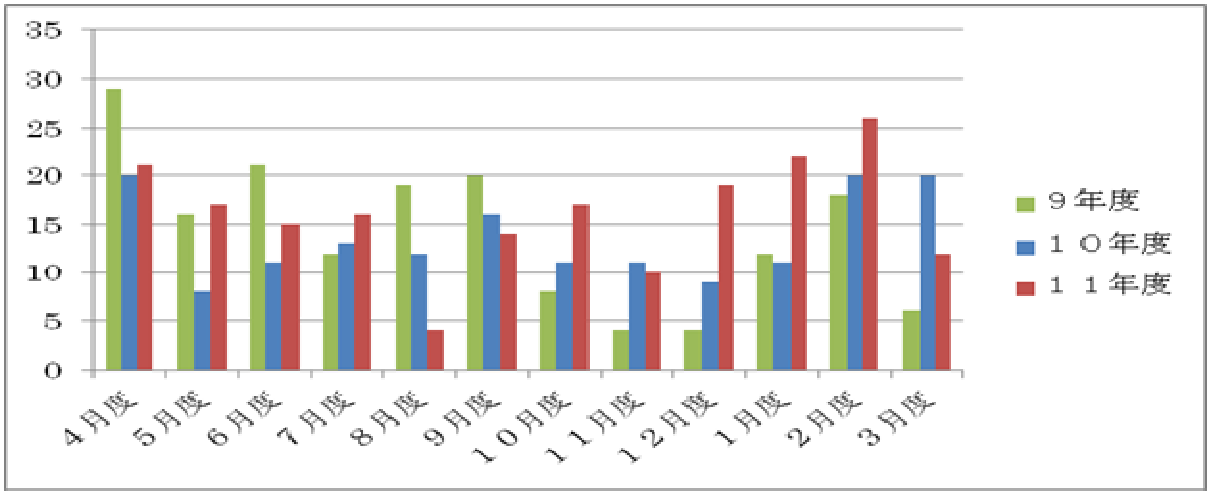
■来館者数　　■相談件数

日付	09 年度	10 年度	11 年度	前年比	09 年度	10 年度	11 年度	前年比
４月度	535	1,091	1,483	136%	29	20	21	105%
５月度	589	1,172	1,433	122%	16	8	17	213%
６月度	923	1,460	1,764	121%	21	11	15	136%
７月度	1,084	1,697	1,808	107%	12	13	16	123%
８月度	694	1,627	1,667	102%	19	12	4	33%
９月度	937	1,395	1,842	132%	20	16	14	88%
１０月度	1,009	1,482	2,060	139%	8	11	17	155%
１１月度	1,035	1,529	1,808	118%	4	11	10	91%
１２月度	998	1,482	1,658	112%	4	9	19	211%
１月度	953	1,369	1,548	113%	12	11	22	200%
２月度	1,269	1,758	1,865	106%	18	20	26	130%
３月度	1,445	2,046	2,731	133%	6	20	12	60%
合計	11,471	18,108	21,667	120%	169	162	193	119%

■来館者数の推移



■相談件数の推移



■実施したイベント

(1) 車座集会

1. わかちあいの会

日　時:2011 年 7 月 9 日(金)19:00～20:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:被災地でボランティア活動を経験した 17 名
内　容:《被災地活動を通じて感じたこと・考えたこと》について、ワールドカフェスタイルのワークショップを行いました。“大切だな”とか“いいこと言ってるな”と思ったことを自由に紙に書き出しました。最後に《これからわたしがしたいこと》を各々紙に書いて、貼りだしてみんなで共有しました。今回は、特に愛知県臨床心理士会から大崎園生氏を派遣していただき、みなさんの様子をみてもらいました。

2. 五感をはぐくむ食育　～食がこころを育てる～

日　時:2011 年 8 月 23 日(金)
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:10 組 23 名の親子（小 1～小 3 対象）
内　容:こらび庵２周年イベント「エンジョイこらび庵」がスタートしました。子どもたちは、子ども用の包丁を使ってとん汁作りに挑戦。お母さんは食育講座を聞きました。その後別室で「いつものおにぎり」を作ります。出来上がったおにぎりに対面した子どもたちは、どれがお母さんの作ったおにぎりかを選びます。お母さんのおにぎりを、全員がちゃんと選んだときは、お母さんばかりではなく参加者全員が感動しました。

3. 市民活動に生かせる感動・共感を呼ぶ見せ方
～舞台作りのプロから見せ方の極意を学ぶ～

日　時:2011 年 11 月 25 日(金)　19:00～21:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
講　師:舞台工房伽藍堂の代表取締役　梶野真男氏
参加者:6 名
内　容:市民活動を効果的に伝えるための手法と観点についてお話をお聞きしました。チームで作り上げるときに大切なことやリーダーの役割についてなど、どの活動にも参考になるお話でした。ひとりひとりの想いを誰が見ても分かるように表現していくプロセスを大事にして、絶対できる方法をみつける。

4．キノコが持っている凄いパワーを知っていますか？

日　時:2011 年 12 月 3 日(土)　13:30～15:30
場　所:大府市民活動センター　会議室
講　師:ＮＰＯ法人愛知健康管理士会名誉顧問の
　　梅岡昭生　氏
参加者:34 名
内　容:生活習慣病にキノコは大変効果的であることやキノコの特性に、参加者が真剣に聞き入っていました。キノコの効用からガンや放射線量の抑制効果等様々な議論がありました。福島原発問題についても言及されました。
今回の車座集会は健康管理士会さんのご協力で登録団体さんとの協働で行うことができました。

５．巨大地震！今すぐ備えたい７つの方法

日　時:2012 年 1 月 22 日(日)　18:00～20:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
講　師:危機管理教育研究所代表　国崎信江氏
参加者:25 名
内　容:国崎先生の著書をもとに「今すぐ備えたい 7 つの方法」を事例を紹介しながら、教えていただきました。
　地震が起こった時日頃からとっている対応方法は間違っていることが分かり、参加された方は「生きること（命）の大切さ」を改めて認識しました。間違った知識ではなく「正しい知識」を知ることができました。

（２）スキルアップ講座

1. 地震の仕組みを知って備えよう

日　時:2011 年 5 月 28 日(土)14:00～16:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:10 人
講　師:大野裕史(センタースタッフ)
内　容:地震が起きる仕組みや、揺れ方の違いを学びました。東日本大震災後、大船渡市、陸前高田市で活動されたNPO 愛知ネットの理事である高桑氏をお迎えし、現地での様子や、今後起きうる東海・東南海・南海地震に向けて私たちがしなければならないこと、心構えなどを聞くことができました。

2. ファンドレイジングが社会を変える！共感・感動を呼び、信じて託してもらう活動資金集めのコツを伝授

日　時:2011 年 6 月 28 日 19:00～21:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:18 人
講　師:鵜尾雅隆氏(日本ファンドレイジング協会常務理事)
内　容:「元気がでる活動志金あつめ」と題したお話を、参加した皆さんが真剣に聞き入っていました。NPOとお金、財源間のシナジー効果、シニア意識の変化、社会貢献に関心のある人が増えている、寄付付き商品が増えている･･･と、話が進むうちに、時間のたつのも忘れ、寄付税制が緩和されたことと、寄付がうまくいっている事例の話などをお聞きしました。

3. そば打ち体験講座

日　時:2011 年 8 月 24 日
場　所:大府市民活動センター　交流スペース
参加者:親子 7 組・大人 2 名
講　師:めん’Ｓクラブ（ワンデイシェフ登録団体）
内　容:ねり・こね・のばし・切り等、工程毎に指導頂き、親子で一生懸命そば打ちを体験しました。そのあと、かきあげやナスの味噌のせ、薬味などと一緒に、茹であがったおそばをそれぞれざるそばで頂きました。自分で作ったおそばはとっても美味しかったそうです。

4. ベジタブルパティシエになろう！

日　時:2011 年 8 月 25 日
場　所:大府市民活動センター　交流スペース
参加者:親子 10 組
講　師:湯尾美樹さん
内　容:野菜や果物の本来の甘みを利用し、無添加の蒸しパンとジュースを作りました。２チームに分かれ、「ホウレン草」と「トマト」の２種類の蒸しパン作りに挑戦しました。できあがった蒸しパンはとっても甘いいいかおり♪おいしいと笑顔で召し上がってました。蒸しパンやジュースにすると、野菜嫌いな子どもも積極的に野菜を食べられますね。

5. パンＤＥリボン（子どもパン教室）

日　時:2011 年 8 月 26 日
場　所:大府市民活動センター　交流スペース
参加者:22 名
講　師:リボンさん（ワンデイシェフ登録団体）
内　容:子どもを対象にしたパン教室で、自分で作ったできたてパンを３種類食べられました。最初に講師のリボンさんが見本を披露します。子ども達は真剣なまなざしで、じっくりと聞いて手元を見ています。時には、歓声も上がっていました。子ども達に「手ごね」を体験させたい想いから、粉から生地を作るまでの過程も一緒にチャレンジしていました。

6. にぃはお！チャイナ（餃子を中国語でつくろう）

日　時:2011 年 8 月 26 日
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:親子 9 組、24 人
講　師:至学館大学　山本経天先生
内　容:講師の山本経天先生が「パンダのてんてん」といういでたちで登場。参加した子どもたちは、餃子の材料を部屋のコーナーにある「スーパーてんてん」へ買い物に行きました。覚えたばかりの中国語で具の材料の肉、キャベツ、しい たけ、小麦粉を買いました。大きな声で発音した子どもたちは、先生から中国少数民族のお守りをいただき、嬉しそうでした。

7. 絵の具あそび「大府の名産ぶどうを描こう」

日　時:2011 年 9 月 2 日
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:親子 9 組 18 名
講　師:あそびのいっぽさん（登録団体）
内　容:台風 12 号の接近しましたが風、雨ともほとんどなく、お母さん、お子さん全員が元気に参加しました。講師の大橋さんの話や指導のもと、ぶどうをみて、描いて、味わうという楽しい親子の遊びの一歩でした。出来あがった絵は、パウチ加工してお持ち帰り頂きました。自分で書き上げた絵を、しっかり胸に抱いて、ちびっこ達は皆自信満々の表情でした。

8. 旬の野菜を見て！遊んで！食べよう！おみやげ付き！

日　時:2011 年 9 月 4 日
場　所:大府市民活動センター　交流スペース
参加者:40 名
講　師:アリエスさん（シェフ登録団体）
内　容:野菜の「花・葉の写真」と「実」を当てるクイズを通して、野菜に親しんでもらう講座が開催されました。ゴーヤ・トウモロコシ・ト マト・きゅうり・アスパラガス・ブロッコリーの６種類の野菜あてクイズに、親子で考えながらチャレンジしてました。絵本 の読み聞かせの時は、じっくりと聞いていました。最後には、野菜たっぷりのカップケーキとスープがいただけました。

9. SUGARPOP クッキーデコレーションレッスン

日　時:2011 年 9 月 4 日
場　所:大府市民活動センター　交流スペース
参加者:18 名
講　師:徳永　愛さん
内　容:ハートとクマの型貫クッキーに、受講者がそれぞれ可愛くデコレーションを装う講座が開かれました。お砂糖と卵白、お水のクリームで手軽に楽しめます。受講者の皆さんは創作力を駆り立て、千差万別の表情を持つオリジナルのクッキーを作成されていました。講座での体験を通し、デコレーションを知って頂くとともに、楽しくデコレーションの技術を学ぶことが出来たのではないでしょうか。

10. 集まれ！ちびっこ！「食べること」を好きになろう！

日　時:2011 年 9 月 6 日
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:10 名
講　師:きっずあにばーさりーさん（登録団体）
内　容:小さな子どもたちが食べることを大好きになるようにとの趣向を凝らした講座が行われました『骨になる食べ物ってなんだ？』『体をつくる食べ物ってなんだ？』絵本を使ってちびっこたちにもやさしい食育の話をされていました。絵本に集中する子どもたちの顔ってホントに良い顔ですね。

11. 薬膳で体のメンテナンス

日　時:2011 年 9 月 7 日
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:10 名
講　師:BROWN　BRAN（登録団体）の岩田さん
内　容:「薬膳とは？」、「中医学とは？」についての講義がありました。手鏡で自分の舌をチェックしたり、色やコケなどの様子で体調をチェック。「舌は体の鏡」と納得しました。第２部は、「身近な食材を使って、夏バテした 体を癒し、秋に向けて体を鍛えよう」の実践教室を体験しました。食べる事を楽しみながらゆっくりと健康管理ができる薬膳料理を作って下さいと講師からの熱いメッセージがありました。

12. メディシナルハーブで元気な生活！

日　時:2011 年 9 月 8 日
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:9 名
講　師:山中　早苗さん
内　容:免疫力の向上、風邪、アレルギー、生活習慣病などの予防に効果があるということで注目されているメディシナルハーブについての講座が開講されました。代表的なハーブの紹介から、それぞれに期待できる効果を教えて頂きました。最後には実際にハーブティーを試飲するとともに、ハーブ入りのパウンドケーキを試食しました。

（3）コラビアイベント

1. 中国緑茶（新茶）を楽しみましょう！

日　時:2011 年 4 月 26 日
場　所:大府市民活動センター　第 1 会議室
講　師:山本経天氏(至学館大学)
参加者:18 名
内　容:参加者は 18 名、約半数の方が初めての方でした。4 つのグループに分かれて、龍井茶という緑茶をいただきました。中国茶はすすると、香りも楽しめます。おいしいと思った時には、「これはまちがいない！」、中国語で「ツェーガ　ブーツォ」というそうです。ミニミニ中国語講座も楽しみました。

2．つつじまつりに参加しました

日　時:2011 年 4 月 29、30 日
場　所:大府市民活動センター　第 1 会議室
内　容:会場ではポップコーンの販売をして、今回はその売り上げをすべて、東日本大震災の義援金とさせて頂きました。ポップコーンは予想を上回る人気でした。あっという間の二日間でした。販売数は以下になります。
○4/29(金):270 食
○4/30(土):196 食
合計:466 食となりました。

3．東日本大震災被災地支援ボランティア説明会開催

日　時:2011 年 6 月 24 日　19:00～21:00
場　所:大府市役所会議室
講　師:高桑氏　ほか
内　容:6 月 29 日～7 月 2 日、3 泊 4 日の日程で東日本大震災の被災地である岩手県気仙地区で活動するボランティアを募集したところ、市職員および一般から21 名の方が応募されました。今回、作業内容やボランティアの心得などのスキルを伝える説明会を開催しました。2 回目の方もいらっしゃいましたが、大半が初めてのボランティア参加で、講師の説明に真剣に聞き入っていました。

４．今年もグリーンカーテンの設置に感謝

日　時:2011 年 7 月 1 日
場　所:大府市民活動センター西側
内　容:今年も「活動団体室」をご利用頂いてる方の善意でグリーンカーテンを正面玄関、両サイドの窓下のところに設置して頂きました。節電の呼びかけに対する効果・日除け・グリーンを楽しむ等、施設利用者様やスタッフに大いに役立ってくれることと思います。

５．中国の花茶を楽しみましょう！

日　時:2011 年 7 月 12 日 10：00～12：00
場　所:大府市民活動センター　会議室
講　師:至学館大学　山本経天先生
内　容:花茶は、菊花と黄ごんがベースで、甘草、さんざしの実、西洋人参、氷砂糖が入っていました。参加者 21 名のうち、半数の方が初めての参加でした。花茶は何と言っても目で楽しめますね。もちろん、お茶の香りと味、その上中国の素敵な茶器も楽しみました。

６．東日本大震災支援レモネードスタンド

日　時:2011 年 8 月 27 日
場　所:大府市民活動センター　フロアー
主　催:レモネードキッズさん
内　容:レモネード 70 杯を販売し、その売り上げを全て東日本大震災へ支援金として寄付されました。子どもたちが、レモネード販売をし、販売を通じてお金の大切さ、支援する心を学ぶレモネードキッズさんです。

７．集まれ！ちびっこ！食べ物クイズに答えて遊んで GO!

日　時:2011 年 8 月 27 日
場　所:大府市民活動センター　フロアー
主　催:きっずあにばーさりーさん
内　容:朝から親子でクイズと景品の準備を一生懸命してくれていました。食に関するクイズに正解すると、ヨーヨー・風船・シャボン玉等のおもちゃがもらえます。たくさんのお子さんが参加してくれました。参加費は全額東日本大震災への支援金としてご寄付いただきました。

８．コラビア交流会（第１部）

日　時:2011 年 9 月 17 日　10:00-12:00

場　所:あいち健康の森

参加者:23 団体 72 名＋スタッフ 8 名＋ご家族

内　容:あいち健康の森公園をウォーキングしました。公園で活動されている 2 つの登録団体さん（おおぶ地域ねこの会、森岡自治区）から活動紹介がありました。そのあと、レクリエーションを楽しみました。テーマソングとして『あの青い空のように』を輪唱しました。ウォーキング中、談笑を楽しむこともができました。

８．コラビア交流会（第２部）

日　時:2011 年 9 月 17 日　13:00-16:00

場　所:大府市民活動センター

参加者:23 団体 72 名＋スタッフ 8 名＋ご家族

内　容:第二部では、コラビアに戻って昼食会と名刺交換会、活動発表・報告会を行いました。活動の発表・報告では、二胡、オカリナ、日本舞踊の発表がありました。演奏だけでなく、自分たちの団体の紹介も、皆さん軽妙な語り口で何ともいえず味わいがありました。パネルを使ったり、ホームページをスクリーンに映し出したり、作り方の実演風だったりと様々な手法の報告がありました。交流会では、他の団体さんとのコラボレーション（協働事例）の報告を頂きました。

９．中国のウーロン茶を楽しみましょう！

日　時:2011 年 10 月 18 日　（火）

場　所:大府市民活動センター

講　師:山本経天先生（至学館大学助教）

参加者:21 名

内　容:中国のお茶の道具は、日本のものとは少し異なっています。木でできた台が茶船（ちゃせん）です。 ウーロン茶は、まず 1 回目のお湯は茶船に空けて捨てます。蓋のないのが茶海で、急須に入れたお茶をこの中に全部空けます。茶海から湯のみに注ぎ分けます。留香（りゅうこう）といって、お茶を吸って香りを楽しみ、飲んで味わいます。

１０．エコキャップアートにチャレンジ！

日　時:2011 年 10 月 23 日

場　所:大府市民活動センター

参加者:16 名程度

内　容:1 年に 1 度全国で一斉にボランティア活動に取り組みましょう！という MAKE A CHAGE DAY にあわせ、コラビアでは、10/18～10/23 までエコキャップアートにチャレンジ！をしました。参加者の皆さんにペットボトルのキャップで大きな絵を完成していただきました。コラビアでは日頃からペットボトルのキャップを集め、リサイクル業者を通じてポリオワクチンの寄付をしています。今年は、東北大震災の被災地支援になりました。

１１．みなさんの支援金でこたつを贈呈

日　時:2011 年 11 月 4 日

場　所:愛知県被災者支援センター

内　容:愛知県被災者支援センターが、東日本大震災で愛知県に避難されていらっしゃる方々向けの暖房器具を集めています。今年の夏、皆様から頂いた寄付支援金（1,746 円）に、スタッフのワンコインカンパを足して、こたつ（布団）セットを購入し、寄贈しました。

１２．第３回シェフ交流会

日　時:2011 年 12 月 5 日　（月）10:00～14:00

場　所:コラビア交流スペース

参加者:登録シェフ 21 名

内　容:二人一組になり、お互いに紹介し合う他己紹介の後、ランチを食べながら交流を深め、シェフ団体紹介を行いました。防災・消火訓練も行いました。実際に燃えている火に、簡易消火器を使って消火するという体験もしました。

１３．コラビアまつり要項説明会

日　時:2011 年 12 月 17 日　（土）10:00～11:30

場　所:コラビア会議室

参加者:18 団体 22 名

内　容:前半はまつりの全体像とともに、各イベントの内容をお伝えし、後半ではファンドレイジングとは？というテーマでセンター長のミニ講座を行いました。参加された団体の皆様から様々な質問をいただき、まつりに対する意欲を感じることができました。

１４．中国のプーアル茶を楽しみましょう！

日　時:2012 年 1 月 24 日　（火）10:00～12:00

場　所:コラビア会議室

参加者:18 名

内　容:40 代から 60 代以上と色々な世代の方が参加されました。プーアル茶 は発酵茶ですが、それにも生茶と熟茶の２種類あることを教えていただきました。自分たちでも実際にお茶を入れて飲み比べすることができました。

１５．コラビアまつり 2012 担当者会議

日　時:2012 年 2 月 4　（土）19:00～21:00

場　所:コラビア会議室

参加者:28 名

内　容:コラビアまつり 2012 は 3 月 4 日（日）10：00～15：00 コラビアにて行います。約 30 の登録団体が会場のさまざまな企画を担当します。その打ち合わせ会議でした。知多メディアスさんの取材もありました。来場者の方にとって楽しいおまつりになるよう、そして、現在活動中の市民活動団体の熱い思いをもっと知ってもらう機会になるよう準備していきます！

１６．コラビアまつり

日　時:2012 年 3 月 4 （日）終日
場　所:コラビア
参加者:650 名
内　容: テーマ
「助け合おう！つなぎ・つながる・みんなの手」
①来館者数：650 名　/　参加団体：31 団体
②ミニ講座　参加者総数：77 名（組）
③ファンドレイジングイベント
クッキー販売:完売　　投票数：260 票
④軽食販売　すべて完売

●ファンドレイジングイベント
参加団体　20 団体
クッキー提供団体　3 団体
投票総数　260 票
クッキー売上30000円とコラビアからの応援金を合わせ各団体に獲得票に応じて資金を分配しました。報告書ではほとんどの団体さんから参加してよかったという声をいただきました。今回はイベント的に実施しましたが、やり方についても改善を希望する声をいただいています。

●ステージ企画
参加団体　8 団体
前の発表団体が後ろの団体の紹介をするというリレー形式でつないでいきました。お客さまも一体となった参加型の発表もあり、ステージ前は絶えず人が集まっていました。
最後の抽選会には 100 人以上の方が参加して下さり、大いに盛り上がりました。

●ミニ講座
参加団体（講座開催）　4 団体
講座参加者　77 名（組）
午前 2 講座、午後 2 講座を印刷室で行いました。
狭い会場でしたが、当日飛び入り参加の方もお見えになり、各講座とも皆さんに楽しんで頂けたようです。
それぞれの団体さんが趣向を凝らした内容で講座を企画して下さいました。

●1 日企画
参加団体 5 団体
参加団体さんにはまつりの間中だれでも、いつでも参加できるコーナーとして体験ブースや、ミニゲームコーナー、防災コーナーなどを企画運営して頂きました。
駐車場では、梅干し飛ばしゲームやガチャガチャコーナー、小さなお子様向けのおもちゃ売り場、防災コーナーなどがありました。館内ではリサイクルおもちゃの輪投げ、シュシュづくり、紙粘土などの小物づくりコーナーが行われました。

● 軽食販売
参加団体　3 団体
今年は食に関しても登録団体さんの力を借りました。大府めん’Ｓクラブさんがミニうどん、リボンさんは揚げたてあんドーナツ、中華まんをご提供いただきました。ちょこべび団さん提供のポップコーン、わたがしも絶えずテントの前に行列が出来ていました。すべて手作りのものばかり。提供して下さった団体さんの温かい心が届いたかと思います。

●エコキャップアート
今年も集まったペットボトルキャップ（エコキャップ）を利用して巨大パネルを作りました。参加して下さった方のべ 72 名。
出来たパネルはコラビアに掲示してあります。

１７．来館者５万人達成

日　時:2012 年 3 月 15　（木）10:15
場　所:コラビアホール
参加者:50,000 名
内　容:コラビアがオープンして丸 3 年になろうとする 3 月 15 日に５万人目の来館者をお迎えしました。自動ドアが開くと同時に拍手でお迎えしました。5 万人目の方は、本日初めてコラビアに来館されたとのこと。5 万人達成記念として、ささやかですがコラビアから花束と、こらび庵ランチチケットを贈りました。日頃からコラビアをご利用いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

Ⅳ. まとめ

●第 1 四半期

大府市民活動センターが立ち上がり 3 年目を迎え、指定管理最終年度となった。3 月 11 日に発生した東日本大震災への市民の関心も高く、つつじまつりでの売り上げ協力金全額を寄付した。

ランチスペースこらび庵の 2 周年記念イベント(8 月 23 日から 9 月 10 日まで)を、「エンジョイこらび庵！」と題し、一般から「食」に関する企画・運営団体を募集した。その結果、食の提供ばかりではなく、スキルアップ講座や体験講座などもある 25 のイベントが開催されることとなった。これまでの登録団体だけではなく、これを機会にコラビアに関心を持った団体が増え、市民活動の活性度が向上しているといえる。

●第 2 四半期

エンジョイ！こらび庵のイベントは大成功を収めた。台風の影響で、1 つの講座が延期となった以外は、予想以上の人数が参加した。特に、5,000 円の経費を補助する方式が、多くの団体の興味・関心を呼び、企画・運営への参画を促すという結果を生んだ。いかに、経費を確保することに悩み、ファンドレイジングが大切であるかについて、市民活動団体はかりではなく、コラビアスタッフも認識を改めることができた。今後この流れを引き継いで、市民活動団体の支援を展開していきたいと考えている。

●第3四半期

8 月 12 日に平成 24 年度以降の大府市民活動センター第 2 期指定管理プロポーザルが行われた。12 月の本会議において、平成 24 年度から 5 年間のコラビアの第 2 期指定管理業務を受託することができた。

第 2 四半期は、エンジョイ！こらび庵やコラビア交流会など、イベントが多かった。第 3 四半期に入り、第2期指定管理業務に向けた、コラビア 5 カ年計画の検討を開始した。また、3 月に計画しているコラビア祭りについても、企画をスタートさせた。今後は、登録団体とコラビアとの協働を主体とした取組を通して、団体のステージアップを支援していきたいと考えている。

●第4四半期

3 月 4 日に「コラビアまつり 2012」を開催した。今年のまつりでは、「助け合おう！ つなぎ・つながる・みんなの手」をテーマに掲げた。東日本大震災への関心、東海・東南海地震への不安感にたいして、みんなで力を合わせて助け合うことが必要であり、そうすることが市民活動の原点であることを訴えた。

コラビアまつりが終わった 3 月 15 日には、開館以来累積来館者が 5 万人を迎えた。この 3 年間の指定管理第1期としての締めくくりに、5 万人目を達成することができ、大府市民への浸透についても一つの節目を越えることができたと考える。

4 月からの指定管理第 2 期には、来館者増の目標を、相談・マッチング件数増に切り替え、スタッフのより一層の向上を進めていきたいと考えている。

■NPO・市民団体支援

●豊橋市民センター市民活動プラザ

セ ン タ ー 概 要

場　　所 ： 豊橋市松葉町二丁目 63 番地
電　　話 ： 0532-56-5141
ファクス ： 0532-56-5161
Ｅ－ＭＡＩＬ： npo-info@tees.jp
Ｕ Ｒ Ｌ ： http://www.tees.ne.jp/~npo-info/
開館時間 ： 9 時～21 時
休 館 日 ： 毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
主な 施 設 ：1Ｆ 事務室・談話室・障害者用トイレ・公衆電話
2Ｆ オレンジ・プラザ
・印刷機、紙折り機、裁断機、ロッカー等
・談話ルーム、会議室、情報コーナー
3Ｆ 相談室・ミーティングルーム 2 室
4Ｆ 小会議室（24 人）、中会議室（63 人）
5Ｆ 大会議室（90 人）
6Ｆ 多目的ホール（99 人）
プロジェクター、スクリーン、テレビ、
ビデオ、ＤＶＤプレーヤー

豊橋市民センター
カリオンビル

Ⅰ.センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

(1)業　務　名 ：豊橋市民センター、オレンジ・プラザの管理運営委託

(2)事 業 の 目 的 ：**「豊橋市民センター」**
市政と市民の「かけはし」となるべく、市街地の活性化を目的に利用者数および利用率の促進を図る。

「オレンジ・プラザ」
様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する

(3)実 施 期 間 ：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（指定管理＝平成 24 年 3 月 31 日迄）

2. 豊橋市民センター市民活動プラザ「オレンジ・プラザ」の任務

「豊橋市民センター」

(1)会議室の予約、利用許可、清掃業務
①予約管理システムの運用、利用許可証の発行・集金、使用後の清掃

(2)施設の維持管理
①施設や備品に関するの点検・保全・在庫管理
②施設の施錠、非常時の対応

「オレンジ・プラザ」

(1)情報の収集・提供業務

①「どすごいネット」(東三河ボランティア情報サイト)の管理運営、登録団体の入力作業、サイト利用操作方法の説明など

②豊橋市民センター、オレンジ・プラザのHP、ブログ作成及び維持管理

③メールマガジン及び情報誌(アーリーレポート)等の発行

(2)活動場所の提供業務

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応

②印刷機器等設備の利用に関する事務

(3)意識啓発・普及業務

①意識啓発活動の実施(業務全体を通じて)

②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

(4)人材育成・交流業務

①人材育成のための研修会を企画・運営(スキルアップ講座等)

②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
(NPO・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催)

(5)相談・連絡調整業務

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能(マッチング活動)

②NPO法人認証取得のための相談への対応

Ⅱ. 目標と実績

区分	項目	第１四半期		第２四半期		第３四半期		第４四半期	
		H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22
市民センター	利用者数	18,639	19,436	20,171	20,225	21,384	21,733	19,639	20,927
	利用率	64.8%	59.0%	64.8%	63.7%	68.0%	66.1%	65.4%	66.8%
オレンジ・プラザ	利用者数	1,114	768	1,352	1,495	728	746	921	684
	相談件数	27	28	19	25	13	21	28	13
	マッチング件数	5	5	0	5	2	6	2	0
	団体登録	9	14	5	12	2	3	2	7

【第1四半期】

平成23年度は、豊橋市民センターおよび市民活動プラザの運営が3年目を迎えることとなります。上半期は昨年と比較して利用者としては4.1%の減となっているが、利用率は5.8%と大幅に増加しました。昨年度からの好調な利用率を継続している。新規に利用される企業の利用が増加し、一度利用いただいた団体が、その後も継続利用していただくケースが増えてきたため、利用率が伸びたと言える。

一方、市民活動プラザ（オレンジプラザ）の利用者数は昨年度後半が低調であったことから、新たなイベント開催やＰＲを進めることで、利用者が増加している。相談件数、マッチングは昨年並みの状況である。

【第 2 四半期】

豊橋市民センターの利用率は 1.1%微増であるが、利用者数は△54 名と微減であるり、第 1 四半期からの高利用率を維持することができている。これは、一度ご利用いただいた方が、次回も利用していただいていること。また、新規に利用する方も少しずつ増えていることなどが効果として出ていると思われる。今後も継続して利用促進に努めていきたい。

一方、市民活動プラザ（オレンジプラザ）の利用者数は減少している。特にオレンジ・フェスタを開催した 9 月度の利用数が少なかった。9 月上旬に発生した台風により、地域の小中学校運動会が延期になったことで、オレンジ・フェスタ開催日と重なり参加者が減少したことが大きく影響している。今後は市民活動プラザの利用者拡大を目標として対策を進めていきたい。

【第 3 四半期】

豊橋市民センターの利用率は 1.9%と大きく伸びた。特に 10 月が前月からの 70%以上を継続して 71.4%を記録した。11 月も昨年度を上回ることができた。会議室ナビを見て仮予約をする団体や企業もあり、市民センターの周知が広がっている。また、一度利用された団体様は利用のしやすさ、価格、清潔感でも好評をいただいており、最近では定期予約の定着化が進んでいる。

次に市民活動プラザ（オレンジプラザ）の利用者は低迷している。昨年比△2.4%と寒い時期になると利用者が減るという状況である。市民センターで利用率の多い 10 月、11 月での利用が減少している。

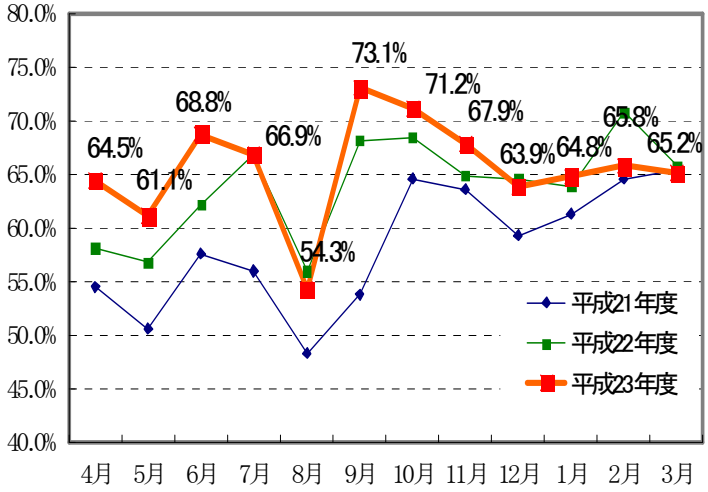
【第 4 四半期】

各月ほぼ横ばいで 65%前後となっている。昨年 2 月は 70%を超えていたが、今年はそこまで到達していない。

また、昨年に比べ、多目的ホールや大会議室の比較的大きな会議室の利用が伸び悩んだことで利用率、利用数とも減少したようだ。

一方で、オレンジプラザの利用者は、1 月～3 月にかけて非常に多く昨年を大きく上回った。市民協働推進補助金の相談や公開プレゼンテーション練習会、そのほか東日本大震災より 1 年経過したイベントや支援に関する会議や次年度に向けての役員交代など、市民活動団体の会議が多かった。市民活動支援のための印刷枚数も年間 50 万枚を超え、昨年度と比較して 5 万枚近く増えた。これも市民活動が盛んになってきている表れであろう。

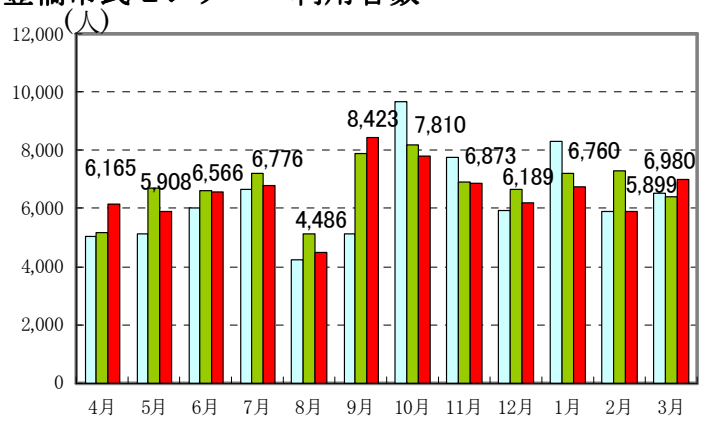
豊橋市民センター　利用率



H23：６５．７％（＋1.8%)3,652 件
H22：６３．９％（＋5.7%)3,541 件
H21：５８．２％　　3,216 件

3 年目を迎えたこともあり、過去 2 年間の実績が、安定的な利用率向上に結びついてきた。インターネットによる“貸会議室ナビ”の継続及び仮予約調整等により、新規利用者も増加している。8 月、2 月での利用率は昨年を下回ったが、8 月以外は 60%を超えている。当初の目標である 64%を上回る 65.7%を達成することができた。

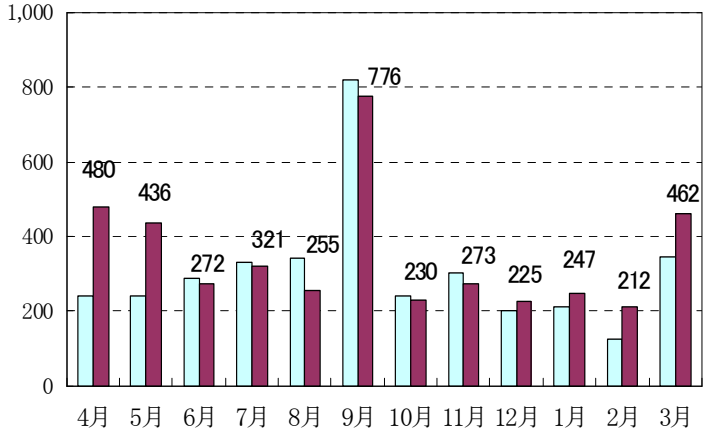
豊橋市民センター　利用者数



Ｈ２３：７８，８３５人（▲3.1%）
Ｈ２２：８１，４０１人（＋6.7%）
Ｈ２１：７６，３１０人

利用者数は昨年と比較すると減少傾向に見えるが、実際には人数の少ない利用団体が小さい部屋が空いていないため、やむを得ず大きな会議室を借りるケースが多く、利用団体が減少したわけではない。定期的な利用者や新規の顧客も増えており、今後は利用者増に向けての対策を検討したい。

オレンジプラザ　相談件数



Ｈ２３：４，１８９人（＋13.4%）
Ｈ２２：３，６９３人（△ 1.5%）
Ｈ２１：３，７５１人

４月～５月にかけて、東日本大震災に伴う募金活動をセンター拠点に市民活動団体が活動した。その後、利用数が減少したが、年末から年度末にかけて、市民協働推進補助金の相談やプレゼン練習会の企画イベント、また新年度に向けての会議、さらには東日本大震災から１年を迎えるイベント等で利用が増えた。

Ⅲ. 実施したイベント

特別イベント

(1)オレンジプラザ交流会

日　時：2011 年 5 月 22 日（日）
　　13：00～16：00
場　所：豊橋市民センター６Ｆ多目的ホール
参加者：23 団体 30 名、スタッフ 10 名
概　要：市民活動団体が情報収集・情報交換する「場」と「機会」を作ることを目的とした会。今年で 3 年目となる。

＜主な内容＞

- 豊橋市民協働推進補助金の報告会
- 松橋　貴さんのライブ
- 交流会（グループワーク）
- フリータイム

市民協働推進補助金の報告会

参加者によるグループワーク

特別イベント

(2)東日本大震災　現地報告会

日　時：　2011 年 5 月 22 日（日）17：00～19：00

場　所：　豊橋市民センター　５Ｆ中会議室

参加者：　12 団体 28 名

概　要:　被災地で支援活動をしてきた愛知ネット高桑俊康理事を招いて、東日本大震災における現地の様子､ボランティアの役割などの報告会を行いました。

スキルアップ講座

（３）東海地震に備えた防災講座

日　時：2011 年 6 月 18 日(土)

場　所：第 2 ミーティングルーム、相談室

参加者：市民活動団体・自治会・個人　16 名

概　要：**第 1 部　東日本大震災の報告**

ＮＰＯ愛知ネット理事である南里より、発災直後の被害状況、災害救援に入ったときの様子、ボランティアセンターの動き、臨床心理士の動きなどについて報告された。

東日本大震災支援報告

第 2 部　東海地震に備えた防災講座

阪神･淡路大震災からの教訓で得た防災グッズの紹介、最新の防災グッズと活用方法、身近なものを利用した手作り防災品など､被災した場面に適したグッズの利用法などを直接手にとって学んだ。

豊橋ＶＣの会による防災講座

特別イベント

（４）東北ふれあい交流会

日　時：2011 年 6 月 19 日(日)

場　所：大会議室

参加者：避難者 6 世帯 17 名、豊橋市役所、蒲郡市役所、蒲郡センター、愛知県被災者交流センター、コープ愛知、弁護士会等

概　要：東日本大震災および福島第１原発の被害により東三河地域に避難されている方を対象にした交流会を開催した。集まった方は、被害の状況や今後の生活に対する不安などを話された。今後は、愛知県被災者支援センターと協力して今後の支援について考える。

交流会の様子

地元の新聞を見る避難者

特別イベント

（５）東日本大震災支援ボランティア

日　時：2011 年 7 月 20 日(水)～24 日(日)

場　所：岩手県気仙地区（陸前高田市）

参加者：一般募集 32 名

概　要：東日本大震災のボランティア支援として、NPO 愛知ネット主催によるボランティアを募集し、現地でのボランティア活動を実施する。被災した地域の支援を通じて、防災および災害救援・復興についての関心を高めてもらうとともに、地域の防災を担う人材を増やす。

陸前高田ボランティアセンター

現地でのボランティア作業

スキルアップ講座

（６）初級パソコン講座

日　時：2011 年 7 月 26 日～8 月 30 日の毎火曜日

場　所：豊橋市民センター　大会議室

参加者：市民活動団体スタッフほか 15 名

概　要：市民活動団体のスタッフとしてのスキルアップに欠かせないパソコン操作の基礎を学び、団体運営に生かす。特にイベント開催のためのチラシづくりや会員名簿の作成、表計算のテクニックなど、ワードとエクセルに関する基本的な使い方を習得する。

初級講座を受ける受講者

スキルアップ講座

（７）話し方講座

名　称：想いを伝える話し方～効果的な活動ＰＲ法～

日　時：2012 年 1 月 29 日(日)13：00～15：00

場　所：豊橋市民センター（4 階中会議室）

参加者：16 名（市民活動担当者 9 名、その他 7 名）

講　師：浅井孝子さん（司会・話し方教室　講師）

担当者：楠原

内　容：・コミュニケーションの大切さ
・上がり克服法
・発声練習
・自己紹介
・スピーチの組み立て方

実技を交えた講習とし、参加者に前に立って自己紹介などをしてもらった。聴講だけでなく、講座の中で学んだことを実践できたことは、概ね好評であった。

話し方のポイントを伝える浅井さん

（８）オレンジ･フェスタ

日　時：2011 年 9 月 11 日(日)
場　所：豊橋市民センター･松葉公園
参加者：出展団体および参加者、来場者 500 名
概　要：市民活動見本市として、豊橋市で活動する市民活動団体の活動内容を一般市民にＰＲすることと、市民活動団体同士が交流を図り、横のつながりをつくることでネットワークを構築することを目的としたイベント。今年度は東日本大震災から 6 ヶ月経過した時期に、被災者支援をテーマに実施。

東日本大震災の応援メッセージを
参加者に書いて頂きました。

特別イベント

（９）東日本大震災支援団体によるパネルディスカッション

日　時：2011 年 12 月 17 日(土)
場　所：多目的ホール
発表者：４団体（笑顔プロジェクト・東北応援団東三河・豊橋市民会議・豊橋防災ＶＣの会）
参加者：30 名
概　要：東日本大震災の支援活動を行った豊橋地域の団体が集まって情報交換と東三河地域で地震が発生した場合の課題等について話し合った。
＜1 部＞市民団体の震災支援活動発表
＜2 部＞パネル・ディスカッション

東三河市民協働推進協議会イベント

（10）どすごい交流会

日　時：2011 年 12 月 18 日(日)
場　所：ライフポートとよはし
主　催：どすごい協議会（運営担当：豊橋）
参加者：120 名
概　要：東三河地域の市民活動団体交流を目的としたイベント。今回は豊橋市での開催のため、オレンジプラザのスタッフとして企画から開催運営に携わる。
＜1 部＞大棟耕介さんの講演
＜2 部＞クラウンを交えて交流会・クイズ

Ⅳ．まとめ

今年度、施設管理の数値目標は下記の通りである。施設利用率は第 3 四半期は引き続き好調である。オレンジプラザの利用者数は第 4 四半期で利用者が増加し、目標を達成することができた。平成 24 年度以降も指定管理者として管理することが決定したため、更なる改善努力が必要である。

施設利用率	目標	64.0%	◎
	実績	**65.7%　（＋1.7%）**	
施設利用者数	目標	82,000 人	△
	実績	**78,835 人　（▲3,165 人）**	
オレンジプラザ利用数	目標	4,000 人	◎
	実績	**4,189 人　（＋189 人）**	

■ NPO・市民団体支援

● 碧南市ボランティアサポートプラザ

センター概 要

場　　所 ： 碧南市相生町四丁目 110 番地
電　　話 ： 0566-42-6561
ファクス ： 0566-42-6571
Ｅ－ＭＡＩＬ： npo-info@tees.jp
Ｕ　Ｒ　Ｌ ： http://hekinan-plaza.jp/
開館時間： 火～土曜日　9 時～21 時
　　日曜日・休日 9 時～17 時
休 館 日 ： 毎週月曜日、年末年始
　　（12 月 29 日～1 月 3 日）
主な施設 ：2Ｆ 事務室・印刷機、ロッカー等、会議室

Ⅰ.センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

（1）業 務 名 ：碧南市ボランティアサポートプラザ　　管理運営委託

（2）事業の目的 ：「人と人がつながり、生きがい・幸せを感じられる地域づくり」を実現するため、市民・団体による市民活動等を支援します。

（3）実施期間 ：平成 24 年 1 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

2. 碧南市ボランティアサポートプラザの主要事業

① リーダーの養成研修等、専門的な研修・講座の実施
② 町内会等の地縁組織への支援
③ 人材バンクの設置、地域活動の知恵袋の作成
④ 団体等のコーディネート
⑤ 市民活動等に関する必要な情報のタイムリーな発信
⑥ 市民活動情報サイトのの開設運営
⑦ 市民活動団体が助成金を受けるためのノウハウの提供とサポート
⑧ 活動場所の提供

Ⅱ. 目標と実績

区分	項目	1月	2月	3月
碧南市ボランティアサポートプラザ	利用者数	146人	187人	215人
	相談件数	0件	24件	10件
	印刷件数	4件	11件	12件

【平成 24 年 1 月期～3 月期】

碧南市ボランティアサポートプラザの管理運営業務が、平成 24 年 1 月 4 日からスタートした。これまでに準備期間は短く、平成 23 年度はまだまだ準備期間である。これまでにも平日の午前中のみ開館しており、以前から利用されている団体はあるものの、まだまだサポートプラザの知名度は低い。そこで、この 1 月～3 月期は、館内のイメージを変えることと、外部に発信するツールの整備、団体同士が集まれる講座の企画、一般市民へのＰＲを重点に実施した。

Ⅲ. 実施したイベント

1. 車座集会

日　時：2012 年 2 月 16 日（木）
　　19：00～20：30
場　所：碧南市サポートプラザ　会議室
講　師：南里　幸（ＮＰＯ愛知ネット）
参加者：15 名、スタッフ 8 名
概　要：東日本大震災の復興支援で活動するＮＰＯ愛知ネットの南里さんを講師に現地での復興のための具体的な活動と東海地震が発生した際に懸念される被害を想定した場合に、どんな行動を取ればいいのか、どこに避難したらいいのかを考える。

2. スキルアップ講座

日　時：2012 年 3 月 22 日（木）、29 日（木）
　　18：30～20：00
場　所：碧南市サポートプラザ　会議室
講　師：寺田康生
参加者：5 名
概　要：団体活動に必要なパソコンスキル、特にワードの使い方について勉強会を２週に渡って開催した。

Ⅳ. まとめ

今年度は 1 月から 3 月にかけて、碧南市ボランティアサポートプラザの運営を確立し、市役所担当者とのコミュニケーションをしっかり取りながら進めてきた。具体的な目標はこれからであるが、今後は協定書内容の確実な実行と市民活動団体に対するＰＲおよび利用の拡大を図っていきたい。

●愛フェス２０１１

概　要

日　　時 ： 平成 23 年 10 月 8 日(土)･9 日(日)
　　13 時 ～ 18 時
場　　所 ： 愛･地球博記念公園 地球市民交流センター
　　(愛知郡長久手町)
Ｕ Ｒ Ｌ ： http://ifes.jp/
内　　容 ： npoブース、ファンドレイジング投票
　　ライブ･ステージ
　　フードエリア
　　ボールゲームフェスタ in 愛フェス
　　愛ファザ walk

Ⅰ. 愛フェス2011の業務内容

1. 業務名･目的

(1)業　務　名 ： 愛フェス 2011

(2)事業の目的 ： 「楽しむことが、東北のためになる」をコンセプトに、来場者がイベントを楽しみながら寄付投票を行う。東日本大震災に対する復興支援のために、大規模ファンドレイジング(資金調達)イベントとして実施する。

2. 業務内容

(1)愛フェス 2011 の実施

①会場全般の管理(エリアレイアウト／記録／撮影／申請／ステージ／ブース／会場設営／イベント進行／ゴミ回収)

②参加者管理全般(企画／参加者管理／保険管理／著作権管理／リハーサル)

③NPOブース管理全般(2日間プログラム／参加NPO管理)

④広報に関するメディアプレスリリース、チラシ制作、web 管理、報告書作成

⑤当日緊急時の救急対応

⑥ボランティアマネジメント

(2)愛ファザ walk の実施

①ウォークコース、期間の設定

②参加者管理全般(企画／参加者管理／保険管理／入金管理／事前交流会)

③寄付サイトとの連携および実施

(3)愛フェスのPRおよびファンドレイジングの啓発活動

①地域イベントでのブース出展

②ファンドレイジング(資金調達)の講座実施

③各市民活動センターにおける愛フェス 2011PR 展示

④情報誌、メルマガを通じた愛フェス 2011 告知

⑤愛フェス PR ツール、ファンドレイジング啓蒙ツールの制作

Ⅱ．目標と活動実績

狙い：イベントのキーワードは「THINK東北」とし、来場者に向けて被災地への興味・関心を喚起し、愛知と東北が交流できる機会を創出する。
また、出展する NPO 団体に向けて、ファンドレイジング(資金調達)を行うことで、自団体の運営の基となる活動資金の獲得を目指す。

目標： 来場者 30,000 人を動員する。

重点施策

ファンドレイジングの概念を理解してもらう。
共感・感動を呼ぶ、NPO のプレゼンテーションを行う。

数値実績

愛フェス 2011 の、当日来場者数は、35,460 人であった。愛フェスの肝である投票は、事前に招待状(＝投票チケット)の配布、フードチケット(金券)購入時の寄付チケット付与、NPO ブースにおけるメッセージシールの 3 種類で行い、投票総数(ファンドレイジング)は 3,351 票であった。
また、愛ファザ WALK は 2 日間延べ 721 人が参加した。

V. 活動の記録

被災避難者に交流の場

豊橋市民センター 17人、経緯語り合う

福島第一原発事故で東三河地方に避難している被災者の集い「東北ふるさと交流会 in 東三河」が十九日、豊橋市民センターであった。（池内琢）

故郷を離れて暮らす被災者同士がつながる場をつくろうとセンターを運営する豊橋市民活動センターオレンジプラザが主催。豊橋市や蒲郡市の県営住宅などで暮らす十七人が参加し、震災前の故郷での生活や福島第一原発事故で避難をした経緯を話し合った。

福島県富岡町から豊橋市内の県営住宅に避難した青木幸次さん（四三）は「事故の報道を知り、放射能汚染を恐れてすぐに家族で車で避難した。途中の避難所では一日におにぎり一つしか食べられない状況で大変でした」と振り返った。

同県南相馬市から妻の親戚が住む蒲郡市に身を寄せた佐藤兼一さん（四〇）は「同じような境遇で避難している故郷の人がいると分かりほっとした」と笑顔を見せた。

センターは今後、被災者が自由に悩みなどを話し合えるよう、毎週日曜午前十時～正午に二階の相談室を無料開放する。問同センター＝電0532（56）5160（月曜休館）

福島第1原発事故で避難した経緯などについて話し合う被災者＝豊橋市松葉町の豊橋市民センターで

11.6.20 中日(15)

2011年6月20日　　中日新聞

被災避難者に交流の場

豊橋市民センター　17人、経緯語り合う

福島第一原発事故で東三河地方に避難している被災者の集い「東北ふるさと交流会　in　東三河」が十九日、豊橋市民センターであった。（池内琢）

故郷を離れて暮らす被災者同士がつながる場をつくろうとセンターを運営する豊橋市民活動センターオレンジプラザが主催。豊橋市や蒲郡市の県営住宅などで暮らす十七人が参加し、震災前の故郷での生活や福島第一原発事故で避難をした経緯を話し合った。

福島県富岡町から豊橋市内の県営住宅に避難した青木幸次さん(四三)は「事故の報道を知り、放射能汚染を恐れてすぐに家族で車で避難した。途中の避難所では一日におにぎり一つしか食べられない状況で大変でした」と振り返った。

同県南相馬市から妻の親戚が住む蒲郡市に身を寄せた佐藤兼一さん(四〇)は「同じような境遇で避難している故郷の人がいると分かりほっとした」と笑顔を見せた。

センターは今後、被災者が自由に悩みなどを話し合えるよう、毎週日曜午前十時～正午に二階の相談室を無料開放する。問同センター＝電0532(56)5160(月曜休館)

一日も早い復興祈って

東日本大震災で東北地方から知多半島地域に避難している被災者の交流会が四日、半田市広小路町の市民交流センターであった。（出口有紀）

震災避難者 絆の輪

知多地域などの16人 交流会で語り合う

県被災者支援センターが知多地域五市五町と豊明市に避難している人を対象に開催。知多市や常滑市などに避難している六世帯十六人が参加し、自己紹介や昼食会を通して、当時の心境や互いの状況を語り合った。

福島県南相馬市の遠藤洋子さん(七二)は孫二人らと常滑市の県営住宅へ避難。「自宅は半壊状態なので、一日も早く帰りたいが、孫への放射能汚染の影響を考えると難しい」と複雑な気持ちを話した。

他の出席者からも「四月から避難先と地元のどちらの小学校に子どもを入れたらいいか」「携帯電話の会社に関係なく、安否確認が一括でできるシステムができないか」などと切実な声が聞かれた。交流会後には、県弁護士会による原発事故損害賠償制度の説明会もあった。

震災後の状況などを語る参加者たち＝半田市広小路町で

一日も早い復興祈って

震災避難者　絆の輪　　知多地域などの 16 人　交流会で語り合う

東日本大震災で東北地方から知多半島地域に避難している被災者の交流会が四日、半田市広小路町の市民交流センターであった。

県被災者支援センターが知多地域五市五町と豊明市に避難している人を対象に開催。知多市や常滑市などに避難している六世帯十六人が参加し、自己紹介や昼食会を通して、当時の心境や互いの状況を語り合った。

福島県南相馬市の遠藤洋子さん(七二)は孫二人らと常滑市の県営住宅へ避難。「自宅は半壊状態なので、一日も早く帰りたいが、孫への放射能汚染の影響を考えると難しい」と複雑な気持ちを話した。

他の出席者からも「四月から避難先と地元のどちらの小学校に子どもを入れたらいいか」「携帯電話の会社に関係なく、安否確認が一括でできるシステムができないか」など切実な声が聞かれた。交流会後には、県弁護士会による原発事故損害賠償制度の説明会もあった。

避難中の被災者対象 弁護士が賠償説明会

岡崎、15世帯30人が参加

11.9.26 中日(14)

西三河地区に避難している東日本大震災の被災者を対象にした原発損害賠償請求の説明会が二十五日、岡崎市明大寺町の県弁護士会西三河支部会館であり、十五世帯三十人が熱心に聞き入った。

講師の船崎まみ弁護士が、賠償請求の方法や制度を解説。裁判での訴訟と原子力損害賠償紛争解決センターでの和解手続き、東京電力への直接請求の三つの手段を上げ、「東電と一度、合意すると追加の請求ができないので慎重に」などアドバイスした。

続いて松岡もと子弁護士が請求の基礎情報となる記録ノートの記入方法を説明し、「放射能の健康被害が出るのは二、三十年後。今のうちに事故当時を思い出して」と強調した。参加者が「請求で東電に提出した資料は戻ってくるのか」と質問する場面もあった。

個別相談もあり、十世帯が利用。福島県双葉町から岡崎市に身を寄せている阿部利一さん(六三)は「仙台に移って建設業を再開したい。少しでも早く新たな生活をスタートできれば」と話していた。(中村文人)

原発での損害賠償請求について個別に相談する被災した家族―岡崎市明大寺町で

２０１１年９月２６日　　中日新聞

避難中の被災者対象　　弁護士が賠償説明会

岡崎、１５世帯３０人が参加

西三河地区に避難している東日本大震災の被災者を対象にした原発損害賠償請求の説明会が二十五日、岡崎市明大時町の県弁護士会西三河支部会館であり、十五世帯三十人が熱心に聞き入った。

講師の船崎まみ弁護士が、賠償請求の方法や制度を解説。裁判での訴訟と原子力損害賠償紛糾解決センターでの和解手続き、東京電力への直接請求の三つの手段を上げ、「東電と一度、合意すると追加の請求ができないので慎重に」などアドバイスした。

続いて松岡もと子弁護士が請求の基礎情報となる記録ノートの記入方法を説明し、「放射能の健康被害が出るのは二，三十年後。今のうちに事故当時を思い出して」と強調した。参加者が「請求で東電に提出して資料は戻ってくるのか」と質問する場面もあった。

個別相談もあり、十世帯が利用。福島県双葉町から岡崎市に身を寄せている阿部利一さん(六三)は「仙台に移って建設業を再開したい。少しでも早く新たな生活をスタートできれば」と話していた。(中村文人)

震災被災者に贈ろう

掃除機

希望殺到競争率２０倍

県の支援センター

東日本大震災で避難してきた人たちを支えるため県が設置した「被災者支援センター」が、掃除機の収集に力を入れている。日本赤十字社が被災者に提供している「生活家電セット」に掃除機が含まれていないことが影響してか、同センターの支援品の中でも特に人気が高いためという。

同センターは、企業や市民から物資の提供を受け、トースターなどの家電製品や乳幼児用ベッドなど、様々な支援品を避難者に贈ってきた。掃除機は、6月下旬に5台分の希望を募ったところ、20倍を超える112件の応募が殺到し、品不足が続いてきたという。

原因として、同センターの担当者らが推測しているのが、4月から日赤が応急仮設住宅などに入居した被災者に提供し、県内でも避難者230世帯が申請した家電セット。内容は、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、テレビ、電子レンジ、電気ポッドの6点で、掃除機は含まれていない。

日赤企画広報室では「震災後の緊急性を検討し、エアコンや固定電話、掃除機などを除外していった。電気ポッドなどに疑問の声もあるようだが、震災直後はガスを使えない地域もあり、必要だと判断した」と説明している。

被災者支援支援センターでは、夏場に取り組んだ扇風機の収集と配布が落ち着いたため、今月の初めから掃除機に力を入れることにした。イベントでチラシを配り、ホームページ(http://aichi-shien.net/)でも提供を呼びかけている。担当者は「被災者の不便な生活は続いている。多くの市民、企業に協力してほしい」と話している。

新品か未使用で保管してきた新古品を10月31日まで募集する。問い合わせは、同センター(052・954・6722)。(黄澈)

避難の思い 伝えて

愛知県被災者支援センター募る

「避難生活で感じた思いを、手紙に書いてほしい」。愛知県被災者支援センターが、東日本大震災で愛知県に避難してきた人たちに、こんな呼びかけをしている。集まった手紙は冊子にして配る予定だ。故郷を離れて暮らす寂しさを抱え込まず、分かち合ってほしいと願う。

昨年11月に支援センターに届いた1通の手紙だった。送り主は、6月末に栃木県那須塩原市から親子4人で自主避難し、愛知県小牧市のアパートで暮らす井川景子さん(29)。「話せる人が周囲にいない」と、寂しさをつづった＝手紙要旨。

井川さんの手紙の要旨　6月末、4歳と0歳の娘を連れ、私たちは栃木県から引っ越してきました。放射能から逃げるためです。自宅が福島県との県境で、数値が高く、主人と話し合い、悩んで決めたのです。

初めは「頑張ろう」と勢いでやってこられたのですが、最近、心に穴が開いたように寂しくて、つらくて。被災者の集いに行ってみようかと思いましたが、東北の方々と比べたら、私の苦労なんて小さいもので、恐縮して出向けません。私の周りには今、話せる人もいません。

でも頑張ります。娘は「愛知県では、外でたくさん外で遊べる」と言います。寂しいですが、ここで生きていきます。

「手紙を書いて元気になった」と話す井川景子さん。5歳になる長女美海（みみ）ちゃん（左）と次女愛乃（のの）ちゃん＝愛知県小牧市

避難の思い　伝えて

栃木の女性「手紙で楽に」

愛知県被災者支援センター募る

「避難生活で感じた思いを、手紙に書いてほしい」。愛知県被災者支援センターが、東日本大震災で愛知県に避難してきた人たちに、こんな呼びかけをしている。集まった手紙は冊子にして配る予定だ。故郷を離れて暮らす寂しさを抱え込まず、分かち合ってほしいと願う。

手紙を募るきっかけは、昨年11月に支援センターに届いた1通の手紙だった。送り主は、6月末に栃木県那須塩原市から親子4人で自主避難し、愛知県小牧市のアパートで暮らす井川景子さん(29)。「話せる人が周囲にいない」と、寂しさをつづった＝手紙要旨。

那須塩原市は福島県境にあり、東京電力福島第一原発事故の放射能汚染で国から除染の財政支援を受けられる「汚染状況重点調査地域」に指定されている。井川さんは「放射能のあるところから来たと知られるのが嫌で、周囲に『転勤』と説明してきた。それで、避難のつらさをだれにも話せなくなった」と話す。

気持ちが沈んで体調を崩し、やむにやまれぬ思いで手紙を書いた。「思いをはきだしたら気持ちが楽になった」と笑顔も戻った。

支援センターは昨年6月の発足以来、「避難者を孤立させまい」と県内各地で交流会を開いてきたが、参加しない人をどう支えるかが大きな課題だった。担当者は「気が引けて交流会に出られない人でも、手紙なら思いを語れるのではないか」と考えた。

「気持ちを同じ境遇の方に伝えてみませんか――」。井川さんに呼びかけ文を書いてもらい、12月愛知県に被災者登録をしている約500世帯に手紙募集の案内を送った。手紙は匿名にして冊子にまとめ、避難世帯に送る。支援センタースタッフ滝川さん(63)は「手紙が交流会への出席につながり、友人関係を築くきっかけになれば。避難者登録をしていない人も手紙を寄せてほしい」と話す。

締め切りは31日。形式は自由で、氏名、現住所、出身県、電話番号、メールアドレスを明記。送付・問い合わせ先は、愛知県被災者支援センター(〒460・0001　名古屋市中区三の丸3の2の1、052・954・6722)。(黄澈)

心に穴が開いたように寂しくて　　井川さんの手紙の要旨

6月末、4歳と0歳の娘を連れ、私たちは栃木県から引っ越してきました。放射能から逃げるためです。自宅が福島県との県境で、数値が高く、主人と話し合い、悩んで決めたのです。

初めは「頑張ろう」と勢いでやってこられたのですが、最近、心に穴が開いたように寂しくて、つらくて。被災者の集いに行ってみようかと思いましたが、東北の方々と比べたら、私の苦労なんて小さいもので、恐縮して出向けません。私の周りには今、話せる人もいません。でも頑張ります。娘は「愛知県では、外でたくさん外で遊べる」と言います。寂しいですが、ここで生きていきます。

愛知に避難 被災者交流

帰郷に不安 職探し焦り

東日本大震災の被災地から愛知県に避難している人たちが集う「ふるさと大交流会」が二十五日、名古屋市中区のアイリス愛知で開かれた。放射能汚染で帰郷のめどが立たない不安や、仕事が見つからない焦りの声が目立った。

震災ボランティア団体などでつくる「県被災者支援センター」主催。震災直後から愛知県内各地でミニ交流会を開き、震災から一年に合わせ全域に参加を呼び掛けた。岩手、宮城、福島県や北関東の被災者百五十八人が、テーブルを囲んで思いを語り合った。

福島県宮岡町の元小学校長佐藤武之さん（六七）は、自宅が福島第一原発から八キロ地点で立ち入り禁止となり、名古屋市千種区の市営住宅で暮らす。「友人も全国に散り散りになった。妻は心労で大腸がんを発症した。わが家に一生帰ることがかなわない苦しみを知ってほしい」と訴えた。

福島県いわき市の渡辺澄吉さん（三五）は妻と子ども三人の健康を考え、自動車関連会社を退職して守山区に自主避難した。「希望する仕事が見つからず失業保険が切れ、貯金を取り崩す生活。先が見えない」と話した。

宮城県塩釜市の自宅が半壊して豊田市に避難した長江満希子さん（五九）はトヨタ自動車の工場の清掃員の仕事を見つけた。「私の年齢では被災地での就職は無理と思う。生きるために愛知にとどまるしかない」と話した。

センターによると、愛知県に避難している被災者は増え続け、一月末時点で五百三十五世帯千二百九十六人で福島県が最も多い。

テーブルを囲み、思いを語り合う被災者 25日、名古屋市中区のアイリス愛知で

帰郷に不安職探し焦り

愛知に避難　被災者交流

東日本大震災の被災地から愛知県に避難している人たちが集う「ふるさと大交流会」が 25 日、名古屋市中区アイリス愛知で開かれた。放射能汚染で帰郷のめどが立たない不安や、仕事が見つからない焦りの声が目立った。

震災ボランティア団体などでつくる「県被災者支援センター」主催。震災直後から愛知県内各地でミニ交流会を開き、震災から一年に合わせ全域に参加を呼び掛けた。岩手、宮城、福島県や北関東の被災者百 58 人が、テーブルを囲んで思いを語り合った。

福島県宮岡町の元小学校校長佐藤武之さん(67)は、自宅が福島第一原発から 8 キロ地点で立ち入り禁止となり、名古屋市千種区の市営住宅で暮らす。「友人も全国に散り散りになった。妻は心労で大腸がんを発症した。わが家に一生帰ることがかなわない苦しみを知ってほしい」と訴えた。福島県いわき市の渡辺澄吉さん(35)は妻と子ども三人の健康を考え、自動車関連会社を退職して守山区に自主避難した。「希望する仕事が見つからず、失業保険が切れ、貯金を取り崩す生活。先が見えない」と話した。

宮城県塩釜市の自宅が半壊して豊田市に避難した長江満希子さん(59)はトヨタ自動車の工場の清掃員の仕事を見つけた。「私の年齢では被災地での就職は無理と思う。生きるために愛知にとどまるしかない」と話した。

センターによると、愛知県に避難している被災者は増え続け、1 月末時点で 135 世帯 1296 人で福島県が最も多い。

2011 年 2 月 15 日 知多エリア版 中日新聞

19 知多 2011年(平成23年)2月15日(火曜日) 中

防災マップ完成間近

大府・石ケ瀬 住民70人 調査や協議

大府市石ケ瀬自治区への備えを啓発する」ことも検討している。災害救援活動団体「NPO愛知ネット」（安城市）が指導している。

市の地域防災支援事業のモデル地区として、昨年十二月から組長、防犯パトロール隊員ら七十人が取り組んでいる。マップの活用の仕方をラジオドラマ形式で披露し、災害時への備えを啓発することも検討している。

約四千世帯のうち自治会には六割が加入。区内を八ブロックに分け、それぞれがブロック内を歩いて危険箇所や被災時に役立つ井戸、公衆電話などを確認した。

歩いて得た情報は石ケ瀬小学校のコンピューターで入力。情報の載った地図を見ながら話し合った。「消火栓は市民でも使えるのか」「企業に協力を要請したい」といった意見とともに、「自治会未加入者への伝達方法は」「個人情報をどのように共有するか」などの難問も浮かび上がった。

日程は全八回で、残りはあと三回。矢田宏子区長は「備えに終わりはない。地域ぐるみで常に防災意識を高めていくきっかけになれば」と話している。（長坂幸枝）

危険箇所などを記した地図を見ながら、災害時の備えについて話し合う参加者＝大府市江端町の石ケ瀬会館で

防災マップ完成間近

大府・石ケ瀬　住民 70 人調査や協議

大府市石ケ瀬自治区が、三月の完成をめざし、地震に備えた防災マップ作りに取り組んでいる。マップの活用の仕方をラジオドラマ形式で披露し、災害時への備えを啓発することも検討している。市の地域防災支援事業のモデル地区として、去年一二月から組長、防犯パトロール隊員ら七十人が取り組んでいる。災害救援活動団体「NPO 愛知ネット」（安城市）が指導している。

約四千世帯のうち自治会には六割が加入。区内を八ブロックに分け、それぞれがブロック内を歩いて危険個所や被災時に役立つ井戸、公衆電話などを確認した。

歩いて得た情報は石ケ瀬小学校のコンピューターで入力。情報の乗った地図を見ながら話し合った。「消火栓は市民でも使えるのか」「企業に協力を要請したい」といった意見とともに、「自治会未加入者への伝達方法は」「個人情報をどのように共有するか」などの難問も浮かび上がった。

日程は全８回で、残りはあと三回。矢田宏子区長は「備えに終わりはない。地域ぐるみで常に防災意識を高めていくきっかけになれば」と話している。（長坂幸枝）

2011 年 4 月 25 日 中日新聞

定員の倍越す 224 人

岡崎　災害ボランティア研修会

岡崎市社会福祉協議会の「東日本大震災災害ボランティア研修会」が二十三日、市福祉会館であった。定員百人を大きく上回る二百二十四人が集まり、会場は熱気に包まれた。

甚大な被害があった岩手県大船渡などで活動している NPO 愛知ネット(安城市)の天野竹行理事長が被災地の現況を報告。県ボランティアセンター運営委員会の鈴木盈宏委員長も「災害ボランティア活動の支援と心構え」と題して講演し、参加者が熱心に聞き入った。

58(月曜日) 中日新聞

定員の倍超す224人

岡崎 災害ボランティア研修会

岡崎市社会福祉協議会の「東日本大震災災害ボランティア研修会」が二十三日、市福祉会館であった。定員百人を大きく上回る二百二十四人が集まり、会場は熱気に包まれた。

甚大な被害があった岩手県大船渡市などで活動しているNPO愛知ネット（安城市）の天野竹行理事長が被災地の現況を報告。県ボランティアセンター運営委員会の鈴木盈宏委員長も「災害ボランティア活動の支援と心構え」と題して講演し、参加者が熱心に聞き入った。

被災地での活動を希望する人は、会場で事前登録票を記入。氏名、年齢、性別、職業に加え、血液型や資格・免許などを書き込んだ。抽選などで選ばれた二十人は五月九日から五日間、宮城県七ケ浜町へ派遣される。（中野祐紀）

天野竹行理事長の話を熱心に聞く参加者たち＝岡崎市福祉会館で

2011 年 4 月 29 日 中日新聞 三河版

中日新聞 2011年(平成23年)4月29日(金曜日)

三河と震災 見た聞いた被災地 ■3■

被災地で長期の復興支援

天野 竹行さん(45)

「私たちは忘れていない」とメッセージを

—東日本大震災の被災地での活動は。

岩手県の気仙地域、つまり大船渡、陸前高田の被災地支援です。私は三月二十二日に現地入り。短期間の帰宅と東海地方での仕事を除き、最低一年は張り付く予定です。

両市の市民活動団体と協力し、四月五日に気仙市民復興連絡会をつくりました。救援物資やボランティアの受け入れの中核になる組織です。IT技術にたけたNPO愛知ネットの強みを生かし、電子マップなどによる被災地情報の発信にも力を入れています。

—愛知ネットの陣容は。

拠点は、津波被害のない内陸の住田町役場に置いたトレーラーハウス。災害ボランティアチームと心のケアチームの二班で、常時合計十人程度です。心のケアは、愛知ネットで募集したボランティアの臨床心理士に協力してもらっています。被災者の本当の心情や要望を引き出すには、心の専門家が欠かせません。

—どんな要望がありますか。

夏の花火大会や七夕祭りの開催を切望する声が聞こえます。「合同慰霊祭も済んでいないのに不謹慎だが、なんとかならないか」と。彼らは復興の精神的シンボルを求めている。田舎ならではの濃密な人間関係の悩みもあります。埋もれた本物の声を掘り起こしてこそ、効果のある支援ができる。

—これまでの災害と比較すると。

行ってみて初めて分かりましたが、今回の被災地は既存の災害のイメージを一新しました。阪神大震災や新潟中越地震とも、東海豪雨とも違う。地震だけなら生活基盤の一部が残りますが、津波はゼロにしてしまった。

岩手県は、緊急雇用事業としてがれきの撤去や避難所運営を「仕事」にし、数千人規模の被災者を雇用する方針を決めました。被災者を「復興労働者」として経済を回す世界的に珍しい試みです。仕事と住む場所があれば、市民はその街にとどまれる。

—ボランティアの在り方も変わる。

かなり変わる。何も考えずに労働者のボランティアを送り込めば、地元の雇用を奪ってしまう。組織と仕組みを作り、情報発信や心のケアなど、間接的な支援に重点をおくべきです。

発生から一カ月が過ぎ、被災者の自殺が急増している。「自分だけ生き残ってしまった」という罪悪感や、被災の軽重による隣人とのあつれきも表面化し、激しいストレスがたまっています。心を解きほぐすための支援が大切です。

—三河に住む私たちにできることは。

現地ボランティアがすべてではない。例えば、岡崎は三河花火、安城は七夕など、得意分野を持っています。物やノウハウの提供で祭りの開催を支援する手もある。

一年たっても、十年たっても「私たちは忘れていない」とメッセージを送り、心の支えになりましょう。将来、東海地震が起きたとき、温かな支援が返ってくるはずです。

(聞き手・中野祐紀)

あまの・たけゆき　機械設計会社の経営者を経て1999年、インターネット技術などを生かした災害救援、市民活動支援を手掛ける「NPO愛知ネット」(安城市)を設立、理事長に。2000年の有珠山噴火を皮切りに東海豪雨、中越地震など、被災地での豊富な活動経験を持つ。西尾市在住。

岩手県 盛岡 住田町 大船渡市 陸前高田市 宮城県 東北新幹線 太平洋

三河と震災 -3-

見た聞いた被災地

—東日本大震災の被災地での活動は。

岩手県の気仙地域、つまり大船渡、陸前高田の被災地支援です。私は三月二十二日に現地入り。短期間の帰宅と東海地方での仕事を除き、最低1年は張り付く予定です。

両市の市民活動団体と協力し、四月五日に気仙市民復興連絡会を作りました。救援物資やボランティアの受け入れの中核になる組織です。IT 技術にたけた NPO 愛知ネットの強みを生かし、電子マップによる被災地情報の発信にも力を入れています。

—愛知ネットの陣容は。

拠点は、津波被害のない被災地の住田町役場に置いたトレーラーハウス。災害ボランティアチームと心のケアチームの二班で、常時合計十人程度です。心のケアは、愛知ネットで募集したボランティアの臨床心理士に協力してもらっています。被災者の本当の心情や要望を引き出すには、心の専門家が欠かせません。

—どんな要望がありますか。

人間関係の悩みもあります。埋もれた本物の声を掘り起こしてこそ、効果ある支援ができる。

—これまでの災害と比較すると。

行ってみて初めて分かりましたが、今回の被災地は既存の災害のイメージを一新しました。阪神大震災や新潟中越地震とも、東海豪雨とも違う。地震だけなら生活基盤の一部が残りますが、津波はゼロにしてしまった。

岩手県は、緊急雇用事業としてがれきの撤去や避難所運営を「仕事」にし、数千人規模の被災者を雇用する方針を決めました。被災者を「復興労働者」として経済を回す世界的に珍しい試みです。仕事と住む場所があれば、市民はその街にとどまれる。

—ボランティアの在り方も変わる。

かなり変わる。何も考えずに労働者のボランティアを送り込めば、地元の雇用を奪ってしまう。組織と仕組みを作り、情報発信や心のケアなど、間接的な支援に重点をおくべきです。

発生から 1 か月が過ぎ、被災者の自殺が急増している。「自分だけ生き残ってしまった」という罪悪感や、被災の軽重による近隣との軋轢も表面化し、激しいストレスが溜まっています。心を解きほぐすための支援が大切です。

—三河に住む私たちにできることは。

現地ボランティアがすべてではない。たとえば、岡崎は三河花火、安城は七夕など、得意分野を持っています。モノやノウハウの提供で祭りの開催を支援する手もある。

一年たっても、十年たっても「私たちは忘れていない」というメッセージを送り、心の支えになりましょう。将来、東海地震が起こったとき、温かな支援が返ってくるはずです。(聞き手・中野祐紀)

2011 年 8 月 6 日 中日新聞 社会面

中日新聞
31 社会 11版広域 2011年(平成23年)8月6日(土曜日)

◇…東日本大震災で被害を受けた岩手県大船渡市で六、七日に開かれる「盛町灯ろう七夕祭り」を支援しようと、愛知県安城市の七夕まつり協賛会のメンバーやボランティアらが五日、準備を手伝った。＝写真、川戸健一撮影。

◇…ボランティアは協賛会が募った安城などの大学生や高校生ら。地元住民と、竹飾りの取り付けや安城市民からのメッセージの展示に取り組んだ。

◇…安城市の安城学園高校三年の本村小枝さん(17)は「わずかなことだけど、被災した人たちが少しでも元気に取り戻してくれたらうれしい」。安城七夕祭りも七日まで被災地復興を願い「希望」をテーマに開催中。七夕に寄せる願いは一つだ。

東日本大震災で被害を受けた岩手県大船渡市で六、7日に開かれる「盛町灯ろう七夕祭り」を支援しようと、愛知県安城市の七夕まつり協賛会のメンバーやボランティアらが 5 日、準備を手伝った。＝写真、川戸健一撮影。

ボランティアは協賛会が募った安城などの大学生や高校生ら。地元住民と、竹飾りの取り付けや安城市民からのメッセージの展示に取り組んだ。

安城市の安城学園高校三年の本村小枝さん(17)は「わずかなことだけど、被災した人たちが少しでも元気に取り戻してくれたらうれしい」。安城七夕祭りも 7 日まで被災地復興を願い「希望」をテーマに開催中。七夕に寄せる願いは一つだ。

中日新聞 中日(23) 11.12.18

「行政と市民団体 連携強化が必要」
豊橋 震災支援の報告会

東日本大震災の被災地で支援活動をした市民団体の報告会が十七日、豊橋市松葉町の豊橋市民センターで、市民ら二十人が参加してあった。

市民センターの主催で、市民有志で作る豊橋防災ボランティアコーディネーターの会など四団体が報告。被災地でのがれき撤去や、草刈りといったボランティア体験をはじめ、視察の様子を話した。

被災地での経験をもとに、豊橋で大震災が起きた場合の対策もパネル討論した。

参加者からは「行政と市民団体が協力すれば復興は早まる。東海・東南海地震に備えるためにも平時から両者が連携を強化することが必要」との意見が出た。(池内琢)

震災時の行政と市民団体の連携強化などを訴える参加者＝豊橋市松葉町の市民センターで

2011 年 12 月 18 日 中日新聞 23 面

「行政と市民団体 連携強化が必要」

豊橋 震災支援の報告会

東日本大震災の被災地で支援活動をした市民団体の報告会が一七日、豊橋市松葉町の豊橋市民センターで、市民ら二十人が参加してあった。

市民センターの主催で、市民有志で作る豊橋防災ボランティアコーディネーターの会など四団体が報告。被災地でのがれき撤去や、草刈りといったボランティア体験をはじめ、視察の様子を話した。

被災地での経験をもとに、豊橋で大震災が起きた場合の対策もパネル討論した。

参加者からは「行政と市民団体が協力すれば復興は早まる。東海・東南海地震にそなえるためにも、平時から両者が連携を強化することが必要」との意見が出た。
(池内琢)

2011 年 12 月 19 日 中日新聞

2011年(平成23年)12月19日(月曜日)
NPO最前線
結ぶ 響く

NPO愛知ネット

震災後、気仙地域を支援

東日本大震災発生直後から、津波で大きな被害があった岩手県の大船渡、陸前高田両市の復興を支援している。

気仙地域と呼ばれる両市に、災害ボランティアと臨床心理士ら計十人を常駐させ、被災者の心のケアを含めて生活を支援。さらに現地の市民団体と協力し、気仙市市民復興連絡会を設立し、物資や生活相談など暮らしの再建に役立つ情報をインターネットと印刷物の両方で発信している。

阪神大震災を機に「災害時に役立つ情報を多くの被災者に提供できれば復興の力になる」と考えた天野竹行理事長(48)らが 1999 年に設立。安否確認や復興情報のネット配信に重点を置き、活動を始めた。東海豪雨災害や新潟県中越地震などで力を発揮した。

天野理事長は「気仙地域で可能な限り支援を続けたい。住民がどんな支援を望んでいるのか情報を集め、必要な支援を届けたい。その経験を将来、東海地震が起きた際に生かしたい。

ことし8月、NPO愛知ネットが、岩手県大船渡、陸前高田市の仮設住宅で開いた被災者交流会＝同県で

NPO愛知ネット
防災知識の普及活動もしている。事務局は、安城市東栄町1。☎電0566(98)5352

NPO 最前線 NPO 愛知ネット

震災後、気仙地域を支援

東日本大震災発生直後から、津波で大きな被害があった岩手県の大船渡、陸前高田両市の復興を支援している。

気仙地域と呼ばれる両市に、災害ボランティアと臨床心理士ら計十人を常駐させ、被災者の心のケアを含めて生活を支援。さらに現地の市民団体と協力し、気仙市市民復興連絡会を設立し、物資や生活相談など暮らしの再建に役立つ情報をインターネットと印刷物の両方で発信している。

阪神大震災を機に「災害時に役立つ情報を多くの被災者に提供できれば復興の力になる」と考えた天野竹行理事長(48)らが 1999 年に設立。安否確認や復興情報のネット配信に重点を置き、活動を始めた。東海豪雨災害や新潟県中越地震などで力を発揮した。

天野理事長は「気仙地域で可能な限り支援を続けたい。住民がどんな支援を望んでいるのか情報を集め、必要な支援を届けたい。その経験を将来、東海地震が起きた際に生かしたい。

NPO 愛知ネット　活動記録 ２０１１
すべての活動は、災害時の情報のために

１９９９年
4月　NPO愛知ネット設立

２０００年
1月　特定非営利活動法人として、愛知県より認証を受ける
4月　北海道有珠山にて災害救援活動、インターネットでの情報発信実施
9月　東海豪雨災害で災害救援活動、インターネットでの情報発信を実施

２００１年
4月　安城市・知立市・刈谷市 IT 講習会（一般・障がい・外国人対応開始）
6月　安城市・愛知県総合防災訓練（矢作川河川敷）参加
9月　愛知県・新城市総合防災訓練　参加

２００２年
2月　静岡県災害ボランティアセンター立ち上げ訓練　参加
4月　市民防災フォーラム 2002（碧海５市地域対象）開催。
日本財団助成事業　外国人のための情報支援プロジェクト開始
5月　第１回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ開催
6月　愛知県・一宮市総合防災訓練参加
7月　大垣荒崎地区水害災害救援活動、ネットでの情報発信実施
8月　第２回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ開催
9月　蒲郡市・愛知県・名古屋市総合防災訓練　参加
11月　安城市東栄町今本町防災訓練『北部小学校避難所体験』開催

２００３年
1月　「みかわ NPO スクエア」プレオープン
3月　あんじょう国際交流祭 「Anjo International Festival」開催
4月　市民防災フォーラム 2003 開催・日本財団助成事業　外国籍住民防災講座開始
7月　九州豪雨・宮城県北部地震に伴う情報発信を行う
8月　愛知県多文化共生プロジェクト「医療通訳スタッフ要請講座」開始
「地域ふれあいネットワーク」防災　キャンプ（愛知県作手村）開催
愛知県・刈谷市総合防災訓練・名古屋市総合防災訓練　参加
9月　十勝沖地震に伴う情報発信を行う
10月　刈谷市民ボランティア活動支援センター（刈谷市受託）オープン
11月　幡豆町総合防災訓練　参加

２００４年
1月　「安否確認システム」を発表
4月　「いっつもトーク」を発表
6月　経済産業省 市民活動活性化モデル事業（市民ベンチャー事業）「災害に強い多文化共生コミュニティ《安心・安全・安城》プロジェクト」開始
7月　新潟豪雨災害（新潟県三条市・中之島町・見附市）救援活動
8月　「安城地域サポートセンター」（安城市末広町）オープン
愛知県・豊橋市総合防災訓練（豊橋市三河港）参加
9月　香川県高松市高潮災害救援活動
11月　あいち中越支援ネットーワークを組織、中越地震関連支援を開始

２００５年
1月　安城市「安城市民活動センター」受託　オープン
3月　経済産業省市民活動活性化モデル事業支援、電話通訳センター構築
4月　「愛・地球博」警備部署外国人通訳ｾﾝﾀｰ運営業務開始
6月　岡崎市「岡崎市市民協働モデル事業」
8月　安城市・愛知県総合防災訓練（安城市内５箇所）参加・
愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
9月　内閣府「防災功労者防災担当大臣表彰」受賞
11月　内閣府「地域情報システムによる安全、安心プロジェクト」開始
防災科研「災害情報コーディネーター養成に関する調査事業」
12月　行政通訳養成講座 開講

２００６年
1月　愛知県青年の家（岡崎市美合町）愛知県より受託
4月　刈谷市いっつもトーク（行政通訳）サービス開始
7月　経済産業省「若者と中小企業のネットワーク構築事業」開始
8月　愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
10月　愛知県「防災まちづくりポータルサイト作成」業務
12月　安城市自主防災支援事業

２００７年
3月　愛知県自主防災組織リーダー研修
4月　安城市安全安心メール配信
6月　経済産業省「平成 19 年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業」継続受託
株式会社デンソー「できるエコ DECO スクールの企画・運営」
7月　愛知県河川情報伝達実証実験
9月　株式会社デンソー「リユースパソコン寄贈プログラム団体交流会」

２００８年
2月　愛知県知事認定「平成 19 年度コミュニティビジネス優良モデル事業者」
3月　愛知県自主防災組織リーダー研修　開催
6月　経済産業省「平成 20 年度若者と中小企業のネットワーク構築事業」
岩手・宮城内陸地震救援活動
8月　岡崎市８月末豪雨災害救援活動
9月　独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)「平成２０年度災害 NPO との WINDS 実験業務」
独立行政法人防災科学技術研究所「島田市・安城市における災害リスクコミュニケーションに関する実証実験支援業務」
11月　厚労省「地域連携型障害者災害救援ガイドラインの策定に関する調査研究事業
愛・地球博ボランティアセンター「災害ボランティア体験における一部プログラム運営業務」

２００９年
2月　安城市職員 NPO 研修
3月　三重県みえ防災コーディネーターフォローアップ研修
4月　大府市民活動センター・豊橋市民センター市民活動プラザ受託　オープン
5月　独立行政法人宇宙航空研究開発機構災害 NPO との WINDS 実験業務委託
8月　独立行政法人防災科学技術研究所　愛知県における自主防災活動高度化モデル事業支援業務
8月　トヨタ自動車「災害ボランティア体験イベント研修」協力
9月　「愛フェス 2009」開催
10月　知立市災害ボランティア養成講座

２０１０年
3月　独立行政法人　宇宙航空開発機構「災害 NPO との WINDS 実験業務」
大府市緊急雇用事業
5月　「豊田市災害ボランティアコーディネーター要請講座」
7月　防災・緊急情報システム開発事業
7月　トヨタ自動車「災害時におけるボランティア体験」協力
9月　「愛フェス２０１０」開催
10月　愛知県における実証実験支援業務

２０１１年
3月　東日本大震災 救援活動開始、大府市緊急雇用事業開始
4月　「豊橋市青少年センター」（豊橋市牟呂町）オープン
6月　「愛知県被災者支援センター」（東大手庁舎・愛知県より委託)オープン
10月　「愛フェス２０１1」開催